



あじき
の
つら
り
記
東海
舟

ル 3
3281



KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

凡 3
3281
卷

往年貝原益軒石室をあたへ生れたりき。然れ
紀取初を舎持して世の人たこやとくむたあよ神の
かみとてくぬ同くはまはるり云例のさむかや

吾孀路記

平安城 書林 柳枝軒



昭和十六年一月十一日寄
尼野實英氏贈



吾孀路記



此記ハ京都と出。近江伊勢尾張三河
遠江駿河伊豆相模武藏九箇國。
往來の道路公志るをり。昔よ東海
道しり。往年貝原益軒先生れ紀行
吾妻 日記 土佐の岡谷重遠先生の紀行 壯遊 録

兩部おんちくごうごん潤色合奏して櫻本しんぼんのり世よ子
 廣ひろむら不ふ也。名所なしょ旧跡きゅうせき。付つ家け跡あと乃の長
 文ぶん。其その要よう用よう紙し志し邦はうて。全ぜん文ぶんのしぎぎと
 ねねのり別べつ。附つ録ろく亦また出でるる。ととかかしし世よ
 子このり也

洛陽書林柳枝軒書

享保辛巳年孟春吉日

不 盡 卯
 昔 奇 觀

丁未年
春
富士原

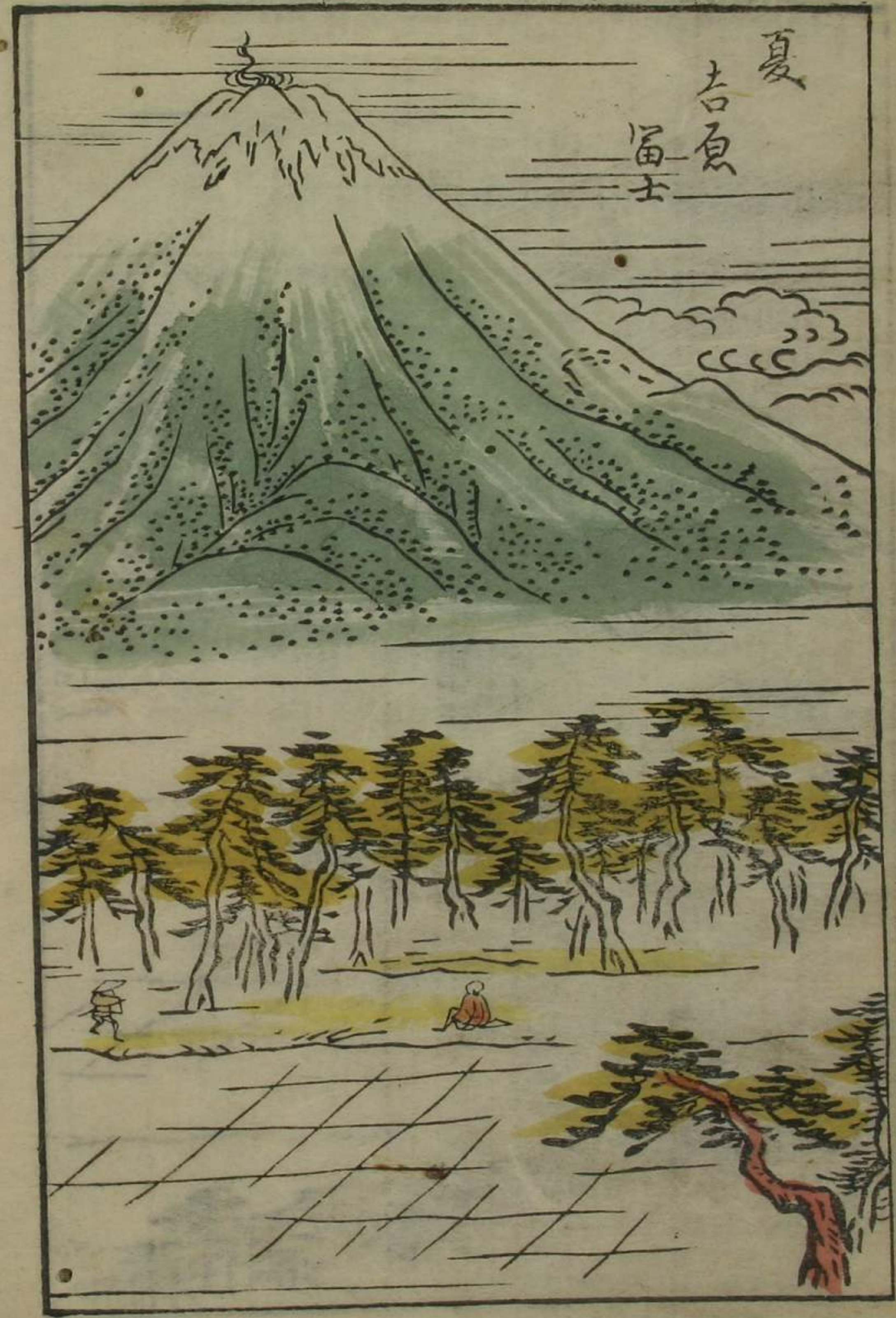


春
富士原





乃中才一
富士乃好
家也每小
六月吉也
那家乃沙
其乃以也
てハハハ
心家生れ
そのあさ
てハハハ

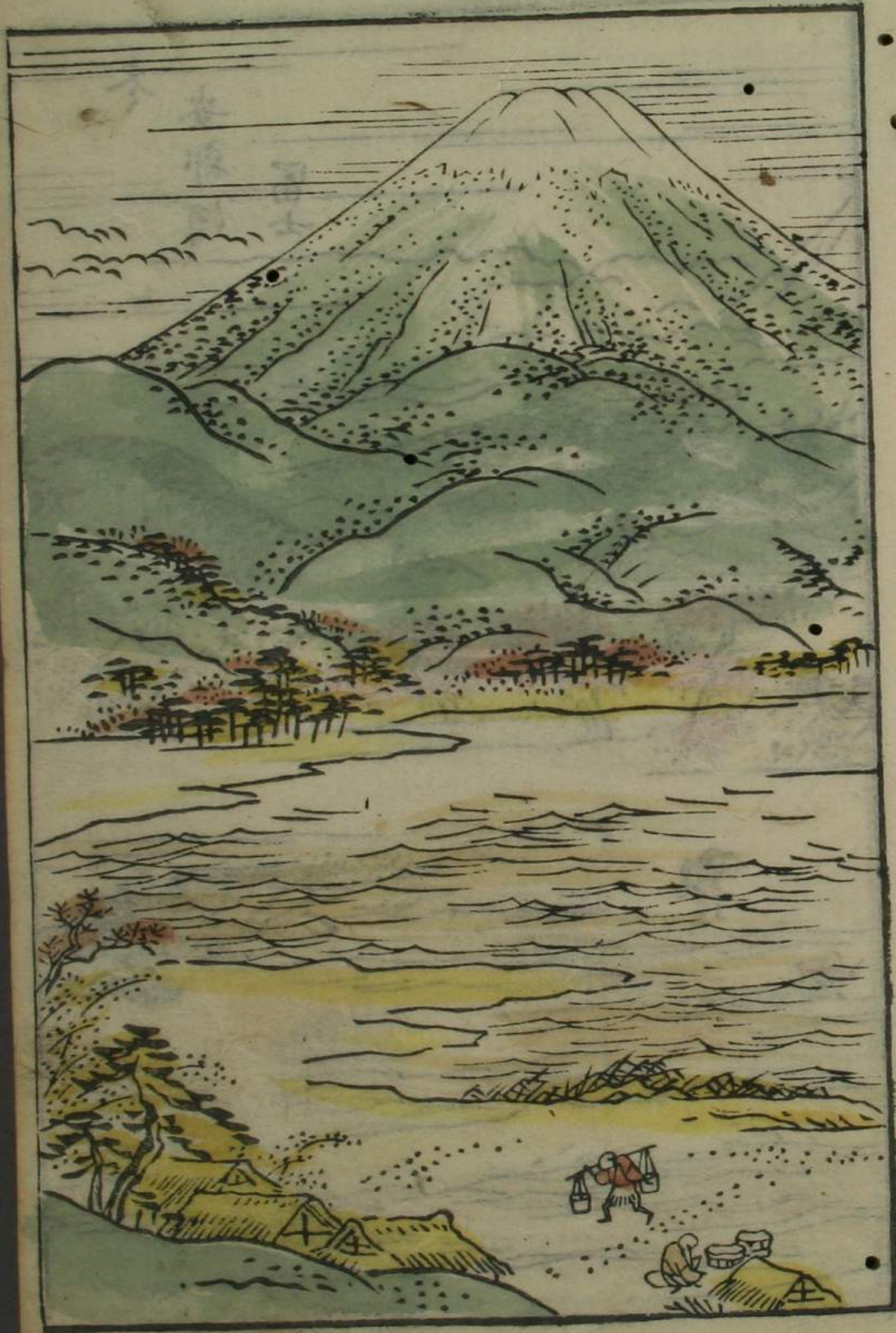


けふ
たけ
の好
京也

秋

田子浦

富士





東海道乃勝京

富士第一と云ふ故く士降

四時の圖は巻首に云ふ事

是ハ古人名畫の圖を得く

写す可也

吾妻路之記

東海道下り

▲京より大津、三里

三条大橋長サ六十一間

半橋板石也日本にて

橋板と云ふて他はけり

けり擬宝珠よ天正十

八年増田を以て長盛が

吾妻路之記

東海道上り

▲日本橋より泉川、二里

▲泉川より河津、二里半

東海寺町の内に在り方に

わりの海晏寺楓樹子株

あり最明寺道宗乃石

塔あり○終り東八幡の

沼わりの川に於て新川は下也
○白川橋は川の白川より出
たり東に新真院祇園を清
水にひたわり○栗田と東
より東にのちの也なり
青蓮院門跡栗田口天王
社をこゝにありとて將軍
塚わりの道がらんことたぬ

社わりのけしき海色小家
けしきまじり掃師町とらふ小
者さうまはあてはる戸より出た
くしをき者やうふ○
やう村○沢田村○太森村
○瀬田村○太こらりしき
村○六郷村志のうら編つづ
毛とらふ六郷の昔富山

高深さつ谷と水堂栗田
白川の方にはあり○道は
たふふ東に新真院の社を
○栗田といふ名ありは地
愛宕郡とて宇治郡ありの
境あり○義経けいけい跳上れあり
乃たた方にはあり○松坂栗
田はより日の暮りのゆる坂也

重忠長後で由内ゆうちん倉紀
のむもあきり六郷よりあ
六七町とらふ太の方にはあり
つらつあきさびうい海の
とらて清とらや今の
田富とぬ源家長朝花
乃志は波のわらひは橋の
とられ松うらぬをけ人そ

三
中
日

○日邊坂のり日邊のりよ
甲のり元徳年中日吉の
寺紀より捨置のりより三
重橋より家まで二里あり
○四支河東仁明天皇の
田舎より人康親王のたの
田舎に今寺を祀るべしと
りふむはるありと○神廟

つとみはる神をり名もた
○古郷舟後池上たのりも
▲河津より新倉川二里あり
河津入口一里計たの方ふ
大師は東と云ふ河あり
○河津の川より舟後を橋
乃水た古郷と云ふ南は
川津より山川と云ふ入間

跡たよ陵村と云ふ村あり
天智天皇の御陵を水
鏡といふ天智天皇の御
十二月二日帝清馬をりて
踏かつて林中にたてま
ひぬはるふありといふ
事と云ふは只清馬はた
つりしと云ふはるありといふ

川と云ふ田の後あり矢の
れ後あり矢のの後に新
田義興公の墓と云ふ也其
標と云ふは新田大明神
社ありまよと云ふ小の指
系と云ふは川の里と云
跡をりしと云ふ入間川
の事と云ふは○市場村

○較下はもとすべては科
りり科八郷あり○左方
に護国寺といひ日蓮宗に
徒ありはあはれは清の
下をさるる谷越ふ出せば
西出るるありはるど若
集滅道といひ○たか
毘沙門堂門跡といふのあり

○病戸村河橋を○けま
○子安村河橋を○新
宿たの海をいひ物あり
是と本牧の十二天の森
ありはけ沖をいひくわ
沖をいひ○富士の人穴東
段より出る仁田宿あり
入るるありはけ○橋

○たか
たは徳羽大明神の社を
た玉命といふなりは徳
羽大明神の額宗といふ
跡也宗といふ光厳時代一
流の徳書あり○六地蔵
○十福寺○横本石橋あり
はあり小園越とてこ
井寺れ下いありはあり

現ふありあり
▲新茶川より新所二里九
か川是れ常陸風系を
双なり申角ふ道て富士
ふありたなは同種食の
海をいひ○のけ村○退る
▲新所十家二里九所
ひありはけありあり

乃中記

○進分を方伏たし出るる也
 ○ひらららるる○大古母
 走井分もいさ○園古昔
 龜坂の園はさし西ありは
 上りより相坂とあり園乃
 小川もいさあり人おぼの
 寄はらるるもぬお坂よ
 へはゆ園の小川ぬた乃

あり宿ありしとを要二
 け所より所お移り敷よ
 新所より東ありてい
 らがむと岩ありなぐむ也
 ○是より東あり合はは
 へへは道たよわの鎌倉
 紀行よりうぐむり附
 福井出と○境あり村尖

志波谷おたすけの井ふ
 園の小川の減より昔ね
 けらよらるるありし音
 羽のよけはあきれおぬい
 つもお坂れものよをも
 昔ねゆららばは古を後
 みるくより又は殿と
 あり園ゆららるる相坂

宿坂武が南州の界あり
 ○中村○やまより坂○お
 坂坂○たむ村た○かよ
 あり○吉田村○矢部町
 ▲土塚相が後沢二里
 八幡河は市十塚は昔とい
 ○原宿たの方松平はあり
 守殿不領玉繩とあり一里

乙中巳

五

とあり名もあやま板よあ
園寺ありと縁と近のこ
の境をいふ付しかり
大なる石像の業師あり
約基井開基也○園の明
神は神の蟬丸なりと云
りしは社の名に因り
清ありとて名に古くは

半けりあり○のんり
▲後平河の右より橋あり
一遍より井開基河ふれ
かき清浄光なりといひ
里に白旗明神あり義経
乃首奥列より鐘念にお
りりはらりて実換の

一の園の清水ありあり
はとるりり○八所坂○
れはたよと井より道
あり
▲大津の製今草津三重河
大津河敷五十八河ありと家
田平朝余あり○松おはる
とすておまの深し

ほは水のあまあり社
あり社乃あまありとあ
首塚あり○此地よ小栗
塚とて名に今より三
百にあり二三里奥に里
に小栗とていふ所しと
小栗あり事ありつとて
さるはらり八廣院也

中巴

湖のほとりには殿の坂平
八王子堅固志がるる滝の
つねとおちたところを
ふかごころお家也えか
先宿の二里の滝一里の
石橋小川とつらつらと
のりこりこりふ川のすつ
うごたの方には本若義仲

書よらんといふ事
強倉志小強倉大なる子
をして詳しおとらり○後
深らるる深らるる道あり
後深らる強倉の約より後
乃深らるる腰越より
極まられ切通とせり○三
里すまら甘繩をりい建

の墓あり俳諧師芭蕉
の墓あり義仲寺
といふ少き寺あり○膳所
秋おちのほむすめあり
びる也拾遺よ無感方
あり入徳文新所明社乃
社あり○中尾村○膳所
城たふありもやいけは

長寺遠きものちとせり
二里あり若深らるるの
一里あり若深の墓れより
はららるる若深又三浦乃
みさたのゆり後のつれお
みせらる若深あり○東田こ
まよりあいのつれおつ○
安地○かろり○おら谷け

204

長橋たのけは又や
ろけ橋た秋小橋り橋の
名に龍神社依着を考
ひの社を橋下れ河の道に
園中れありてくを湖中
入て其末流やうをり
定流へ流を流をさそて
はひあてつるまはの神社

是て好意は橋守の間に
わをよりいへる多し
る標ちと龍神社を依
置持現也其種身も公
勅請たりはあまのりしり
あまの公也。十回飯。と
下宿虎がるるあまの
○宿河東はあまの虎がる

橋川十二川古坂の川
ゆり勢田かふらとす里奈
あり石山れ下に供御乃
流ありのりて流をさそ
其下いふといふは下
あまの川の河原の流を
ろの流は河原の流を
おは流後ろといふの流

あまの石あり丙辰紀行
と詩あり
▲大坂より小田原へ四里
大坂はあまの流後の流
あまの流はあまの流は
の方面に流るる流は
あまの流はあまの流は
しより流るる流は

谷の隈を圍く石の垣圍也
 四月下旬の日は谷より
 夜々やから小雲こぐも散りて花
 出で栲たけねぬぬや花散はな散
 万れ雲又一雨ぬ集り丸
 くつくつ使つてえいわり
 うのころり水乃また
 萬まくくりりややりりふふ毎毎夜



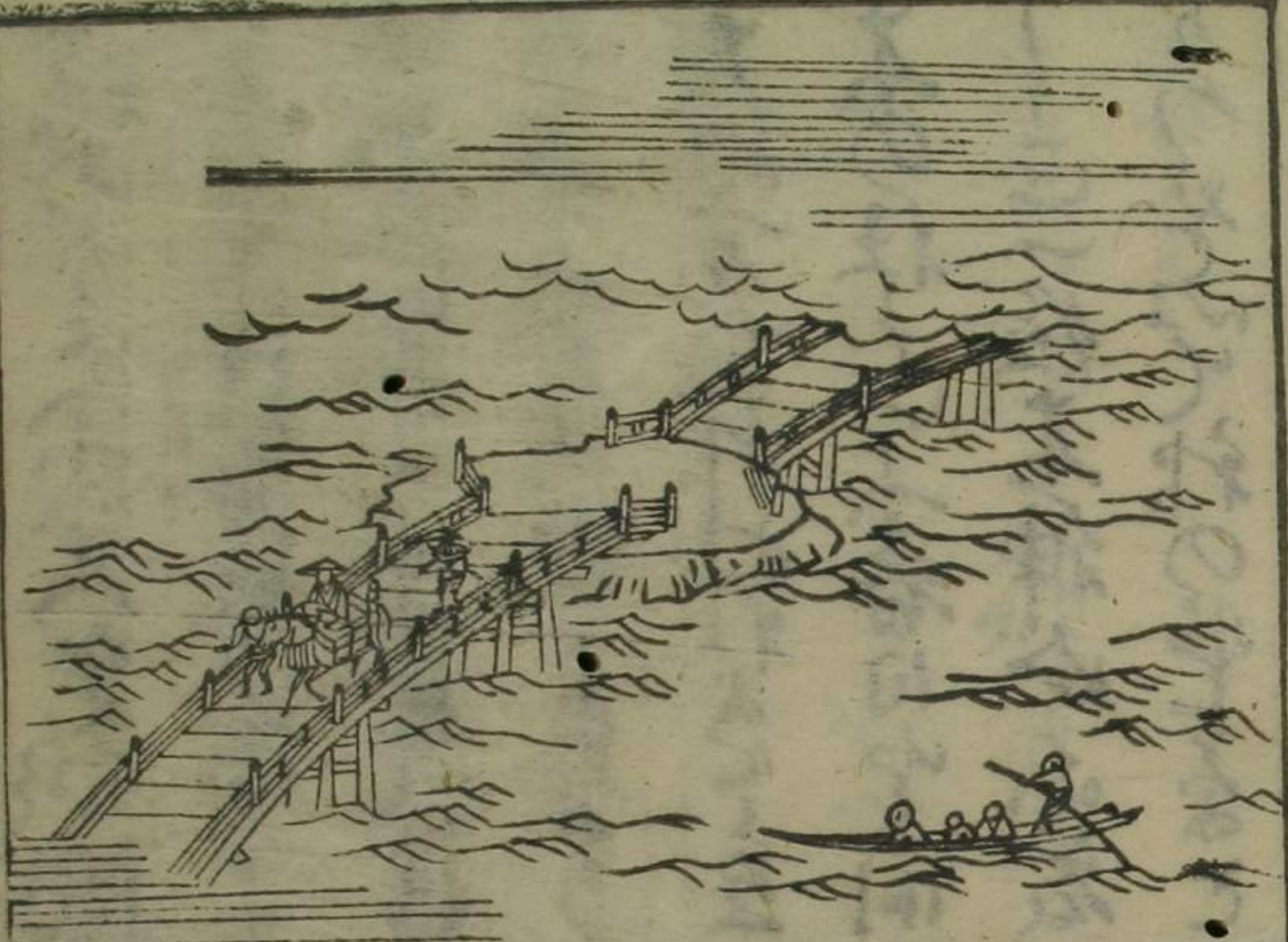
此のまゝに御月夜遊て
 川下つらつらと流れてハ
 又月よりの花堂はなどう多たくく盛も
 せらつらの大い村のおきま
 けり。新田のまぢり川の跡跡ふ
 可也者有るもはむといはふ
 うひは柔座月の輝乃
 池わりの左橋ひだり鞆たづの八

竹のほ道は花を舟西相
 和章わさむねののさしといれり
 秘ひりり志しれれりり遊あそぶぶ立た決けつ
 のひらひらりりののててれれををああり
 遊あそぶぶのの人ひとののまま屋やののまま
 房ふらうををししととりり床とこををああり
 乃の後のち像のうありあり年としいい本ほん下した太
 坊ぼう門もん後のち積つみりりおお住すまりり妙めう心しん寺じ

中記



聖谷孤油りともり。○小磯
 ○切接首切地務あり。○固
 府おみと社の社名。○必
 府の窮富。○恒々村は不
 ひし。○三多とつし。○
 梅沢梅沢ふとら。○あふ
 わり大やう。○あふとら。○あ
 妻ら。○押切橋浦。○あ



ままの橋が橋土肥あどと
 ゆりる橋ふとら。○あふ
 乃あ也相列の内也。○あ
 乃てら。○あふ。○あ
 の湯は。○あふ。○あ
 清くも土肥の。○あふ
 のあは。○あふ。○あ
 ちてら。○あふ。○あ

懐わりの天武天皇の白鳳
 年中に結成也。○唐了
 定と追分といふ東海道
 中らるのりつとあり
 方明神社とて立
 本の社といふ春日と同
 一正一位本神今小坂
 ありて神の志とある

赤河三里江戸一千里
 あり伊豆海も亦也。○
 赤河村の香波は徳あり
 香波村 町のあたる香波川を
 沿ひたりと云ふは香波の
 よりあり丸あり坂あり
 といふは香波のりて坂あり
 といふは香波のりて坂あり
 といふは香波のりて坂あり
 といふは香波のりて坂あり

草津 同栗が石級二重
 土寄あり飲み石あり
 草津川より海へ上りて
 今昔ち川中にて目川と云
 ○新屋敷村○おろし
 目川村○おろし村○川

小坂つらやといふ町も人あはれは
 あり富家のすく種をばくちやより
 ありて六里ありたりといふは香波のり
 といふは香波のりて坂あり
 といふは香波のりて坂あり
 といふは香波のりて坂あり
 といふは香波のりて坂あり

面村川のつらのり
○釣里まかり○子原こはら

村いししりの名なをを付けてしりに

信しん後ごせの知ちりの異い

域い同どう日にのの信しん園えん者しや一いっ等とう小

のの信しん後ご亦またよよりて并ならりり

○あのひしりり○高たか野の村むら○

三さん上じやうふふたたななここのの信しんじじをを

小このの其その形かたち留とどめめのの信しんじじ○梅うめ

末すえ○二に地ち差さ○のの○ととささ

▲石いし部ぶ同甲かぶ郡のの水みづのの三さん重じゆう九く

石いし部ぶ社しゃのの古ふる娘むすめ大だい明めい社しゃと

○小このの楢の子こ保たか村むら○平へい松しょう村むら

○針はり村むら○夏なつ見み村むら○古ふる長なが

村むら○三さん雲うん村むら○田た川がわ村むら○横よこ

大だい川がわ土つち務む甲がのの古ふる長ながのの男おとこ

松まつ川がわのの○三さんのの村むら○小こ脇わき村むら

石中記

○河か勾こう村むら○河か勾こう川がわ富とみ土つちの

すすええ路ろよりより流ながるるけけ川がわ太ふた

一いっ河がけけりりてて海うみへへ又また鞠まり

子こ川がわ先まののはは西にし川がわととのの男おとこ

我われ中ちゆう村むらのの○一いっ色しき

村むらのの信しん後ご也なり

▲小こ田た原はらのの新あらた根ね四し里りの

小こ田た原はら故ふるのの信しん後ご也なり○あの信しん後ご

けけのの信しん後ごのの小こ田た原はらのの男おとこ

○早はや川がわのの信しん後ご也なり○石いし部ぶの

石いし部ぶのの信しん後ご也なり○石いし部ぶの

信しん後ご也なり○石いし部ぶの

石いし部ぶのの信しん後ご也なり○石いし部ぶの

石いし部ぶのの信しん後ご也なり○石いし部ぶの

石いし部ぶのの信しん後ご也なり○石いし部ぶの

石いし部ぶのの信しん後ご也なり○石いし部ぶの

○南方に飯道ちよる金
喜山岩を院といふ伏の
大正先達のちよるち銀
二百石あり○大野村○布
引ふといふ長三四里つ
ろろらあり

▲秋日甲分のちよる二里守八河
ふの町北下條宮所ナヌ

町余の町の入口たよ八樓
ふの町方い城を富の
中程よる富二よるた
お方いり記を考とあり
大野の村○くろ林○新橋村
○小里村○いり川○今里家
村○大野村○徳友村○
市場村いり川のちよる

町中包

中野町也○いり川○長
興といふる塩元のち編
東母後守殿善光寺也
○二枚橋二枚橋○小野村
○塔塔は湯○ゆのちよる
大いり湯せん出方高也○放
芝子地子○早早お寺の山家
ふのの善光所○湯中坂

○湯のの宿○とくも川
たよ預さ雲店も○一瀬
川橋あり○大沢川坂も
○懐た多宿○こつら坂○
かぬ本坂○さつとくも○
ふのの口○白水坂○いり
ふげちよる二子ふありと後
撰集いり川のちよる

長束大彦少輔正家が後
 伝ふ○志保村○前野村
 ○松尾村松尾川松尾河津
 のやうにと流る川也是廣
 小舟を○外流する
 ▲赤山綱坂下ノ二里中
 赤山の姓とつり○正二位

ともつり○八面坂右の御根
 権現ののたわり宮根権
 現の赤火の首の也の者
 僅天の皇天の平の室の中
 小万卷上人の始て造るり
 ちみりの寺の山の東の平の寺
 河每真のなり社の銀の二百の石
 附るり権現の事の每の曾

切村明神の社○田村川
 ○回尻の蟹が坂の猪鼻
 多尾道の位の勢の境のあり
 ○本の丸のやの○このまののの鎌
 山坂の河のののりの明の社
 多の明の神の天の武の天のをのれのり
 色のあのいのむの今のをのりのん
 世のの人のれのとのあのりの鎌

我の又の牙のれの刀ののの事のおの委
 の附る録のもの事のりの屋ののの略
 との○さのりの河の京の○河の関
 而のちのよのわのりの○とのとの録のと
 小水海のわのりの是のはの声の
 海のとのつのり
 ▲宮根のよりの二の宮の供
 とのるのとの三の宮ののの同のりのたの

中紀

五

湯菴の物語とるん是東
ふじの道鬼と前丸
う討らふらうやうと
又是東として丙辰紀行
小入らうり後藤時より
伊勢海世宣より○た
しこつ子あり

▲坂下新野南を里廿六町

世常昔の故郷の坂下は
いそ安二は五月二可あ
新清ふよりて定後やう
○新事な定より西妻まに
形もと愛○くらひ村○
一池村○後藤川或いたぬ
流を或いおし流て美濃
を依て八十洲といふ

方下は伊豆の山系蛭ヶ
小崎より足利朝記流
乃西より軽う小崎の河
小崎の坂より伊豆の
あふもあふこれ小田原陣
の河も東に流坂から
進ふれを河といふ里
あり河河といふ物也

伊豆の山系あり○こ
さか石伊豆相換の境乃
標也けしがるふつと云味
をくらして伊豆の海より
長敷の系より伊豆の山
れ秋乃あつく也とらふらうと我
熱うらひ伊豆
乃海や沖のあつた○かすてん坂
かみあつたも○かすてん坂
○石より坂○あか坂○

思ひなりきり奇抄なり

▲関日野が飛ぶを里守

関日野が飛ぶを里守

関日野が飛ぶを里守

関日野が飛ぶを里守

関日野が飛ぶを里守

関日野が飛ぶを里守

関日野が飛ぶを里守

少少後○山中宿小坂の

少少後○山中宿小坂の

少少後○山中宿小坂の

少少後○山中宿小坂の

少少後○山中宿小坂の

少少後○山中宿小坂の

少少後○山中宿小坂の

少少後○山中宿小坂の

一関の入口の山とて古城の

一関の入口の山とて古城の

一関の入口の山とて古城の

一関の入口の山とて古城の

一関の入口の山とて古城の

一関の入口の山とて古城の

一関の入口の山とて古城の

一関の入口の山とて古城の

一柳伊豆守の殿の墓あり

一柳伊豆守の殿の墓あり

一柳伊豆守の殿の墓あり

一柳伊豆守の殿の墓あり

一柳伊豆守の殿の墓あり

一柳伊豆守の殿の墓あり

一柳伊豆守の殿の墓あり

一柳伊豆守の殿の墓あり

山中

▲三浦三浦が飛ぶを里守

▲三浦三浦が飛ぶを里守

日本書紀

村の北のあたりに素戔嗚尊の住居あり

素戔嗚尊の宮あり○大國の御
志麻呂の御孫の御孫あり

▲無心同ヶ丘 二里

是より西のあたりに

〇千貫樋とつこの宿あり
〇千貫樋とつこの宿あり
〇千貫樋とつこの宿あり

無心の中十七町人家七百軒

〇和岡郷 〇川合村
〇開成川 〇小田村
〇中富田 〇富田 〇森
下巻 〇くらがき

▲赤井 同ヶ丘 師 廿五町

無心より西のあたりに

〇千貫樋とつこの宿あり
〇千貫樋とつこの宿あり
〇千貫樋とつこの宿あり

石井

方神人家百部余をた
那燒ま名物也。○たぐり
○うまき河。○うまき河。たぐり
石井市市七町。○たぐり
石井市市七町。○たぐり
石井市市七町。○たぐり
石井市市七町。○たぐり

○ゆき。○ゆき。○ゆき。○ゆき
村たよ。○ゆき。○ゆき。○ゆき
川橋をたよ。○ゆき。○ゆき。○ゆき
社あり。○ゆき。○ゆき。○ゆき
村方より。○ゆき。○ゆき。○ゆき
川といふ。○ゆき。○ゆき。○ゆき
北といふ。○ゆき。○ゆき。○ゆき
村面あり。○ゆき。○ゆき。○ゆき

○ゆき。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき

○ゆき。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき
石井市市七町。○ゆき。○ゆき。○ゆき

石井

石井

清泉あり遊池といはれ裏か
毎歲試筆此水に汲てこい
てれとふを其の形類の
逸馬は倭といふ出づる是
今此里の長持光祖ある所跡
吾等の観音 難足山野登寺
毎年の二里にを以
て常の事といはるる年比
或は吾等の此藤鳩峯也

白州のうらひのうらひのや
うらひのうらひのうらひのや
墓乃の志はるる〇〇と板
橋町及び口たふし守社を以
て此の形類の河の谷あり
〇河曲流流川の石香貫と
つる果のうらひのうらひのや
松門大なる寺は此の地あり

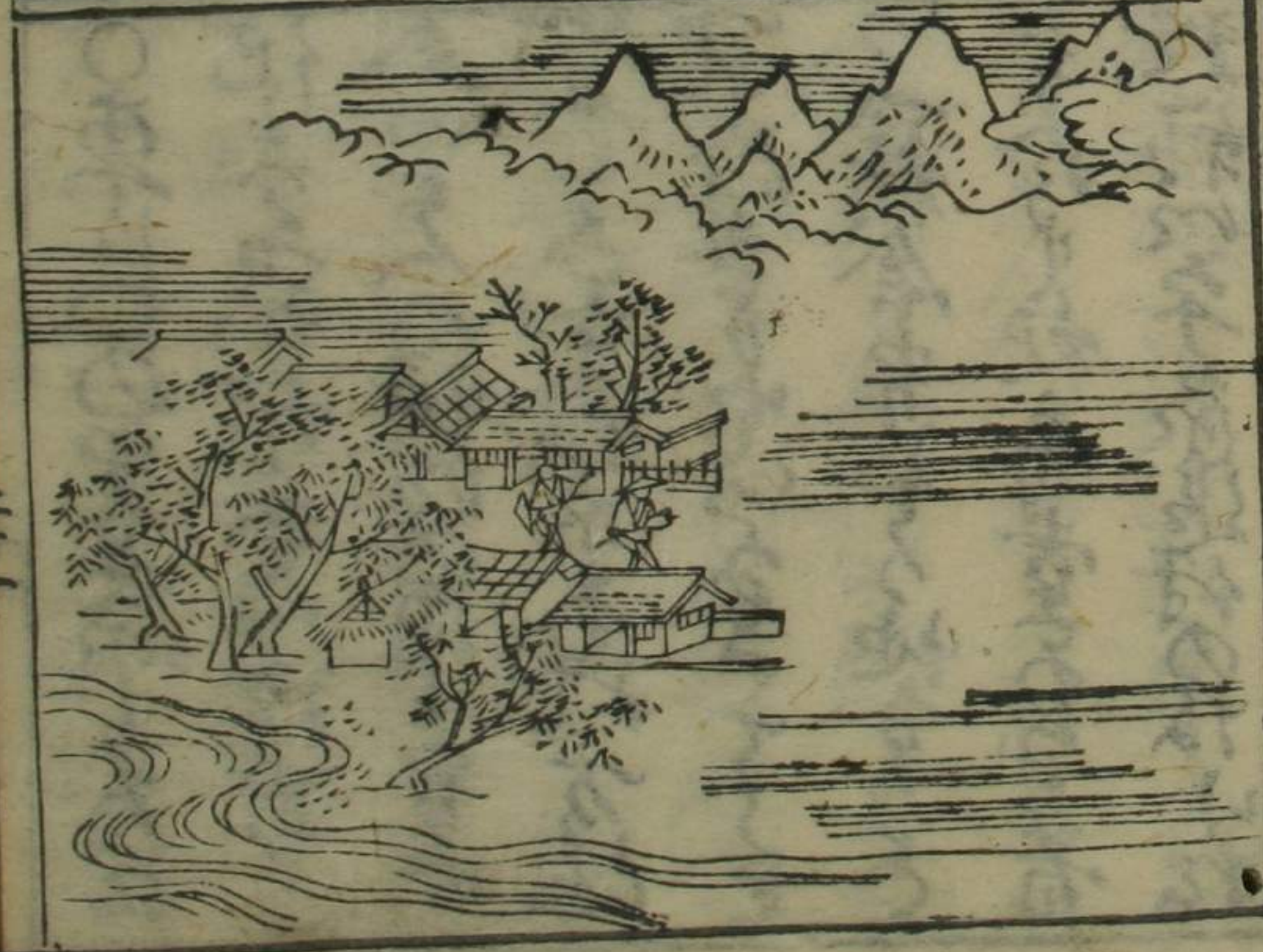
つる里をこころの何某といふ
の跡馬寄人の町といひて
是と云ふは七と是則示現と
はるる地は其里にありて球
くるの教の如くは馬の價白
銀を西のまゝとて被給を以
てりまはれしして名を以て
中川の鎌倉といふるを以て

平家都落の地肥後守貞
はあまのりき盛の遺骨
とありて首のりきまはるり
しとありて地は細りしや〇
戸倉村古郷ありてお栗氏
政の居る是系新古栗氏
家の地はなり
▲河津川が原一里あり

彼らにけりけりし頼朝は感
 不斜ふさての共とちるなまよ
 任りしれとまきまけりし里
 の長代に右馬をうと今
 もいひつるまを浦冠うらかん其冠
 頼上居の所信右馬出る
 里とま多ししてまよとまま
 頼朝回の中に入佛地地地

古塚ありし形跡をぬれし
 縣あま之島島橋居行とらま
 長平は破却へさくとほ○治ちは
 の南に純じゆんはつととてありて
 多うれまよとまびつとらま
 ○治はの南にたつとつとらま
 川とつと伊豆の奥とつとらま
 河也つとらまつとつとらま

久し後の飛んかそ橋はしな
 本城にしろいそののよ本自
 然の生付枝根出つとらま
 今も回の中に一回四方程乃
 塚つかの形跡も信らまよのつとれ
 橋はしよいれ橋居も也飛つとらま
 小塚つとらまつとらまのつとらま
 てぬとれ居の飛つとらま



〇鞠うは承之座の寺あり
 〇小岩村のはけえつと
 村つえはと坂〇〇あ村〇
 大岩村のは移り〇退き所
 入は石たへらあり勢別村戸
 の道也東方伊勢神宮へ詣
 ぬいそが神戸のひまよと神体
 〇知り〇月形村のひまよ

〇東りとの里長町るたの
 記よりの村お承の決まり
 今更人のは海の内より
 〇子お承あむれ方海
 ついにさしおむらつとさ
 〇精舎ありまの地よりと
 と今も祝音堂ありと昔
 〇新田の村は退けのた小松

〇長りし金沢あり又四足
 八鳥とある祝音あり〇赤
 地村たは渡田の地はと
 ▲留市のは著名三貫八町
 〇いざし河〇〇らや〇とら〇
 〇岩川のは〇岩田村〇まよ
 〇〇松守村〇わさけ橋
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇殿様孫の代は松ありと
 まよまよのやと又賞上
 〇人お承は元信と御代
 〇あむの村ありと名あり六
 〇代りお承又遠いありと強
 〇倉多名は河のまよと孫
 〇まよらりまよと塚あり〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

おまののあまをばつ神めを
 けまを焼給後たよち敷
 あり○あま村水は田家○西を
 川邊はまあまは出せり
 とゆるは勢迫いの境あり
 ○やと船村○たろく村たは橋
 ▲まろ名同兼の宮と七里後
 まろらんあまのの余と市

明神社をけま松林後
 榎の村あり○松船村○今
 浜村たの方條ふい奥あり
 の古城也じり今川のお城
 ありまろまろは破却あり
 あり○大塚村○三本松
 ▲まろの古家、三里六町
 はあらんあまのの深がらひ

中は春日大明神社の二橋
 大明神相殿をばりまらぬ
 は七月十七日作よしと
 つまろまろ八月十八日まろ
 わり端を所たよ天武天皇
 社を踏みの相殿一た坊あり
 向也け津社にけ青津見魚
 天宮とたまのまのけとれ

ちゆり若屋まろのよん若
 ちゆり林の社を明神馬
 とを若屋まろのみ神まら
 百とよとまらとよぬあり
 けし○同屋新田○一本
 松たのよ榎の井中とよ
 ちゆりわりのまろまろまろ
 つる古松ありまらぬ

又さういふ事成りぬる。
徳川の天禄年中の集り。
此海は野尾法の後也。西へ
向てけしき河の事あり。
佐倉の浦りては佐倉の三
里の川毎のまは川は各
川の下也。しるふ佐倉の事
といふ事佐倉川の中へ

の事河野全盛の頃あり。
西さうの事此の所なり。
いふ事あること。別後^{まごご}の事
なり。よきこと。水は冷泉
中へ降る。造るを道に
ハ後の社あり。大社あり。り
今まらる社あり。こと。此
毎年八月十日にお祭りす。

みまき河は海には田島
まで。千二百五十石の川下
の方面の海は佐倉の事
と。村合戦道し。西佐倉が
社あり。二里半九所。社あり。
万場^{まんば}は。三里半九所。万場が
岩場^{いんば}は。三里半。岩場乃
間ぬ。大河の事。海也。尾越

ハ新造と云。○助業新田。
○松原川の事。土の事。此を
事あり。こと。此に治あり
○浮海より云。○いの本町田
○大井町田。○今井村定と
同古事あり。○川合橋は。河
下と云。誤り。こと。此の事
此り。事也。○中老事

川のよき堤防もまじり重なる
○佐倉の極向^{まう}はけられたる
を長考者との歩み入まは
あつてしめふと云はる清心
のま中村とけはわたりきり
鯉^{こい}がえは清心とけはまじり
あつた場のおまじり清心と
あつたまのまじり清心と

▲吉原より清原^{せいげん}二重^{にじゆう}供
吉原の所延^{のり}安^{やす}八^{はち}月^{げつ}六^{ろく}
日海^{にっかい}のあまき民^{たみ}を悉^{しつ}く
崩^{たふ}らぬ世^よ信^{しん}よは清心と
あり町の入り富^{とみ}全^{ぜん}の徳^{とく}舟^{ふね}
の方^{かた}あけと余^{あま}とのつらぬ
るねらふ天^{あま}和^わ二年^{にねん}の所の
ありしお世^よ信^{しん}よは清心と

坊^{ぼう}のせいのしめは同^{どう}警^{けい}師^し
は家^{いえ}也^やとけはまじり清心と
けまじりかかえの向^{まう}おけはけ
まじりまのけは清心とまのけ
の若^{わか}のひらりも藤^{ふじ}とま
り清心とけはまじり清心と
れ同^{どう}回^{かい}富^{とみ}平^{へい}均^{くわん}ありてまじり
とあつたまのけは清心と

経^{きやう}て水^{みづ}災^{さい}あつた事^{こと}と想^{おも}はれ
十^{じゅう}町^{ちやう}のあつた所^{ところ}を
まじり清心とけはまじり清心と
十^{じゅう}町^{ちやう}のあつた所^{ところ}を
まじり清心とけはまじり清心と
十^{じゅう}町^{ちやう}のあつた所^{ところ}を
まじり清心とけはまじり清心と
十^{じゅう}町^{ちやう}のあつた所^{ところ}を
まじり清心とけはまじり清心と
十^{じゅう}町^{ちやう}のあつた所^{ところ}を
まじり清心とけはまじり清心と

人々多しといふ本名ハ
惣田也。○熱田社本社二
府年以向階九ツを東は
井樓細草雜もつら也
ある日本武名ありハ
釵文年以向階ハあり
源も又社文養姫の社
ハ此と社社といふ仲哀也

在り白濁あり志の松林
米宮といふ少は桐を毎
二月始に痛痛馬あり○厚
ふじむ吉あり二里家
小宮我々方の社あり
地より又二所吉あり方
こそたの方久あり
福ありといふ又方其臺

○小清社府田村と云
西の社社なり二里あり
あり白も此今ハ訛て云
村といふ○又方名あり
乃てつとつとつとつとつ
○よつとつとつとつとつ
海の回りのものといふ
海人の名をとも見ゆり

石碑あり○富生活の清者
舟後別道に盛る軍團の
軍兵つとつとつとつとつ
より平家ありとて水鳥
むしから羽音は清氏の軍
兵押ありといふやせり
わけあり今昔傳あり
富生活といふ事とてある

中記

三十一

70

乃内海ありも海の義朝
と長田丸司が付し悪又獄
田二十七位者世ありて切腹せ
らら又行勢の面れし朝
徳が獄と存る
▲海那の地難新二軍すす
海邊名抄も成海とさり入
口たの方い海の古城あり

明道記ありてあり○
向田はあれた方の山系新
二島津中城跡あり○ふが
孫○かこは海○中村○かこ
▲由存と興津二軍す
由存後の風死は細存又
由勝とりまの由存川○
あり海○今宿○ち尾○

其聖王は世のたもあり
海ものなてた方い岸跡の
古城ありはも海清と云
るは也○中津河は○とんか
くうはか○あれた海邊○鳴
海より二軍来たるこのあふ
桶狭間とつとあふ岩の是
はと云ふはあふて今川

倉次○とつと者も利る
氏と其弟忠義と兄弟合
戦中しあはた手記よとて
くうはかの下道中の上道
とて二軍の道記ありし子
あはて海方の山系向をあふ
船も也今と潮干ふ方の
人馬あり中川の明道記

71

72

義之三方おのり打撃て別じ
可く義之を打たぬいお
かり義之を打つるおの義
之の墓らひはたぬお桶おけ
狭間せまとらふ村らひ岩の末
お大野平の千人塚とて
手にお首塚埋へおらふ。
藤合じつ。○河井村界川

羽鮮はつせんの行使より河姑かぢて
開く上るの道はひらひら
より伊豆の橋平の島に宿
土印つちいんよりわらひ持もちの田子
の海三保松糸神しんの
浦うら疎そはひらひら。○あつ。○
沖津川おきづがわ風荒おのり浦
田川たがわとらふ利濃里川より

わりの尾張急流の境也は
おと境をわらひ川をこて
二村ふたむらのあまのたふら
わらひ上野より那須つら
乃心也のこころはひらひら新屋の境
ゆ。○今岩村。○羊川。○の
とらひ

ゆらとあり今わらひ海は
おらふ三保松糸神しんにわらひ
はるこの境と許奴こひめ美濃
とらふあはれ也おあはれ
又けきとらふ甲引身延とら
ゆらとありわらひのたの方
ら女侍茶とらふあはれ
とらあり

▲池田いけだ海那うみなる急流三重亭

ちりふの河はたの方には
 池わりの神乃池あり狸附後
 依て名とほつたお名物
 碧海都智亭とわりの海
 宮月ちりふの市も也一月の
 間市あり夫れり市あり○
 池狸附より中津にけり東に
 海送よりおまを里行りあり



八橋村と昔橋は八の村あり
 といふ所も今も河やあり
 寺の跡のさおむは橋の跡と
 いふ面元を河やわつた後よ
 業平山墓とほ人のあふ
 らんを河やわつたはち一
 字の者八橋と名もあつた
 杜の谷のほとくも名もあ

▲奥津より河尻一里二町
 奥津又息津奥津沖津は
 たりとあり○清見寺の
 跡田子持浦○清見寺
 巨龍と求玉院と云を
 一の舟子浦を縁師乃
 冨基とあり宮殿殿女宮
 舟り後わりの存ふあり

ちりふ

左の地あり○牛田村獲家
 波明神社あり○今村○大
 濱系尾山東の足跡と云
 伝あり古良くはきよ連
 ○尾崎のい○精次坂（尾崎名
九里所）○美禰村○美禰宿
 津指橋の石橋ありの古あり
 ○美禰橋式百八間あり○と

梅樹あり堂裏絶高也
 ○横よりよこはらねと○
 津より川左の坂ありと
 神師浦とつらつら河内
 志記より龍浦より津穂
 呉服の社ありの行七
 里の間谷者後の溪と
 ついに後の溪より東と

つて村○鴨田菟田井の
 井田ありしをまたの方へ奉
 母の古橋あり奉母里あり
 ▲美禰より古河へ一里あり
 町入りふね森川あり大坂城
 あり○むけのい○古平村は
 橋あり川着ありわや川や
 ついに川より一里あり乃

神師の浦と名付あり
 ○すまき浦○唐原川あり
 海ついで川より唐原村あり
 杉畑の町唐原ありの最
 かりしありといふ唐原
 久保種ありとあり○
 あり深川橋あり○二保松
 原と保成の法穂あり

美禰記

七二

方古良の海道に小豆坂
といふ所ありて天正十三年八月十
日今川義元と織田信秀
と合戦ありし所也。たまた面
乃に清川景春ありたりと大
沼村あり。○思の心なき久
保村飯橋村あり。吉呂河井
村といふ所は河邊所なり

若保郷方より書は風土
記に由りては清一里四方身也
清の中に清徳社と風土
記に由りては貴命也又
清徳社清徳社は比咩命
ありとありは清徳とあり
徳倉郡也又清徳の社あり
同風土記に清徳社乃難

○若保村東の方の松平家
清光親の位ありて松平の
里あり其より松平なる
ふ其よりといふ所は松平小
道一若保より大橋ありて成
道と松平院といふ清光家
ち飲又石所あり。○家幼
あり其より松平の

宮小羽車隊田社といふ所
ありは羽車とありて
羽車といふ所あり
▲此所より府中、二重世九所
○此所より○追分村は方
は保徳地あり。○ひかり
○若保村志は帆村といふ
いふ所ありて松平の墓あり

中記

東のわり

▲後河内を渡り、二里九所

を^ま本^ち河^か内^の○^ま中^{ちゆう} 古橋の中
主橋の北

と有り道の北より南に

西に流れてまじらふと越る

ふ積志取といふ宮ありと

ひきつるまはるゝと今かくて

の中を流るゝとひびし持統ちゆうとう

○若^わ雅^や村^{むら}大路^{ぢう}より十八所

なるに河内あり延喜式

後河内草雅神社とあり

是也^{これ}まの^まを^をた^たは^はし^し日

を^をま^まる^るま^まを^を征^{せい}伐^{ばつ}の

大^{おほ}將^{しょう}とて^とま^ま國^{くに}一^{いつ}ち^ちり^りと^とし

と^とは^はし^しり^りと^と東^{あづま}も^も史^しを^を終^はて

る^るは^は焼^や敷^しと^とん^んひ^ひと^とん^んた

春^{はる}と^とふ^ふい^いの^のあ^あき^きと^とい^いて

板^{いた}文^{ぶん}ありし^しと^とま^まり^りの^のあ^あぢ^ぢと

わ^わつ^つふ^ふと^とま^まり^り見^み方^{かた}乾^{かん}の^の真^ま

河^かの^のた^たま^まを^をわ^わり^りと^とり^りや^やま^まみ^みり

わ^わり^りも^も并^{なら}ば^ばは^はら^らと^とい^いふ

わ^わつ^つあ^あり^りは^は板^{いた}文^{ぶん}の^のあ^あぢ^ぢと

平^{ひら}野^のと^とい^いふ^ふが^があ^あり^り○[○]中^{ちゆう}ま^まと^とい^いふ

平^{ひら}野^の○[○]は^はら^らと^とい^いふ^ふが^があ^あり^り

の^のあ^あぢ^ぢと^とい^いふ^ふが^があ^あり^り

り^りと^とい^いふ^ふが^があ^あり^り

り^りと^とい^いふ^ふが^があ^あり^り

り^りと^とい^いふ^ふが^があ^あり^り

り^りと^とい^いふ^ふが^があ^あり^り

り^りと^とい^いふ^ふが^があ^あり^り

り^りと^とい^いふ^ふが^があ^あり^り

り^りと^とい^いふ^ふが^があ^あり^り

権現様清いおはきにて
たゞし其前を山松清電
堂ありしといつて或後より
後府の遷院して清いおはき
いし其前の市札を後め
けしといふもいふ〇八王子村
〇其の古蹟といふ山家小
糸の古蹟といふ山家小

〇古高村〇つらつら〇ゆき
〇古高村〇つらつら〇ゆき
〇古高村〇つらつら〇ゆき
〇古高村〇つらつら〇ゆき
〇古高村〇つらつら〇ゆき
〇古高村〇つらつら〇ゆき
〇古高村〇つらつら〇ゆき
〇古高村〇つらつら〇ゆき

糸坂といふ山松多く見
奉りぬの法よりつらつら
▲糸坂之別名と清油十六所
竹をたぬの松をいかり水
祿のはり井の松は海に由
〇古の河のつらつら道とて
つらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつら

祝考堂あり
▲府中が勸子、一里半
府中の清間の社あり是の
不二清間は新ま也延喜
中當土も其を家以勸子
と東照神現清り教
清社あり奉社二本あり
あり御い白い楊社あり

万中

孫のり豊川は約を
より河佛の是よりわ
ふりり志が須香の海と
このりやとくより今
いぬのりてを田(出)る也
▲清油同那の音田二重ま
かひる村たの方を飯越乃
るのり淡松(出)る○國府

己よりふらむ宮を壇百級
のり同なるものより完と
このりはとくより南社を造り
英業いまいから大社を田中にて
社乃り英業から事日
之は才とくはは石才二
とくより社乃り石附く
社友のりきたる道社

村こむらのりた九里に風を
又傍房ありは甚佳景のありり
於七百石附く天をより又
相○たの方よりた乃方
依編いりて海より通
○はくし町ねる也○又この
以倭よこの抄しりを案の○小坂井
村たよ風をよむは方以
魂魄こんぱくのりといふはひり

内とてあるのり淡松は乃
之は志を核こよりとくは
なり○後府の山城の志
十二の威就一 東照君
清徳居るをそひ七月と
日室に梅とそひなり
わらり 大敵をけし弟後
河大細とそひは後河田

万中

万中

申する歎けり紀伊の
形と有つて半之保は是
よりたのき也。○^{三十一}石田村。○
下地村。

▲吉田より二川を
よりぬくといふ橋と
○老川矢野川
とて云れ川わりの

字方と云れ
一橋と云るのら
○久保の
社
り
地
あり久保の中

子の譯と
書はは後
らう。○阿
りる。○
張るぬ
高入
川
るて

田の橋と云る長石
は河上の
乃根を流る
そ也老川の
うして一
は秀の

子
書
らう
りる
張るぬ
高入
川
るて

七

七

子の門を矢立をたの鏡乃
 わくも是と野牛川と云と
 二り〇細倉川川也〇二連
 本本〇いじの茶屋〇大
 尾村〇火打坂たよる尾山
 わり〇栢沢

▲二川より白瀬から二重は
 是より本ありいねある

是石島家力の頼神なる元
 康成攻落とく西也持取を
 今用宗とくまう〇〇〇越
 ひしは里れまうと千子
 後倉頼朝のうはひなみ
 二夜中侍を働まひり事
 せふの志れらぶく也ひ而
 乃のちよる林靈社と歎

成り〇名敷也〇埴川遠参
 の界也〇様ぐら様〇さ
 宿〇三師〇多崎〇御足坂
 家より富本山寅卯にわら
 てしめるがむ光廣のまを
 い是を富本山山と云れ
 しとらんしり

▲白瀬を河原と云ふ郡より二里は



白濁が久手橋より定て白管
中よりあり。○橋本定いしは
淡名^{ウツナ}の橋ありとて音淡
みよ湖^{ウツナ}清いといふ國を
わんごみと云略してと云
たうとていふ都を定ぬ
うみとていふ也都を定ぬ
湖の邊のあり淡名は橋あり

をひけ島橋二重小社あり
里人ふくふ是は法皇たそ
働けり也十二支りとて記と墓
乃とい社をささるゝといわ
毛の馬よのて定ぬれ物ほの
事也と〇といふなり
▲物子より定ぬ二重五所
はあゝの橋と海り大い方

淡名の湖より海に流す也
川よりとて橋也定ぬ天皇
仁和元年に詔みて淡名
の橋を修むとて定ぬとて
十二支りひらとて定ぬとて
扶桑略記よ出たり
▲新橋が定ぬた所橋
近く大湖とて今二重の

六河の川の紫屋寺を是
蓮教師の長徳道の寺あり
迦世 権現様よりちる
舟舟の舟を地をさしてより
船を改て寺といふなりや妙
心寺流りり舟ありとて長
り作池の地斗とて定ぬとて
ちるよ白池ありとて定ぬ

白濁

白濁

海にいつ降着るたの方
をさうさうと云ふ所の此後
ひうの陸地とてありしは
後寺門院明應六年六
月十日大地震にて湖や
海との間を以て海とひと
ひの出入海とあり今物足
あり一説より後相模院永

角に宗長の墓のり乾次
高て天福のころよりかり
赤の吐月峯あり番くハ
附強の峯より○ゆり河
○赤もゆる○二宮も○赤牛
村のあり赤牛川を志の
しよ世の流る甲別と程
大相模の赤牛川にあり

宗七年八月廿七日洞の負
ひの物出くさるるまじう
つひにまじうさるの系と遊り
かろるれいそけり今切
やいよ也○元政は師を以
海りてけりめて富生坂の
そ師とてかきんころり

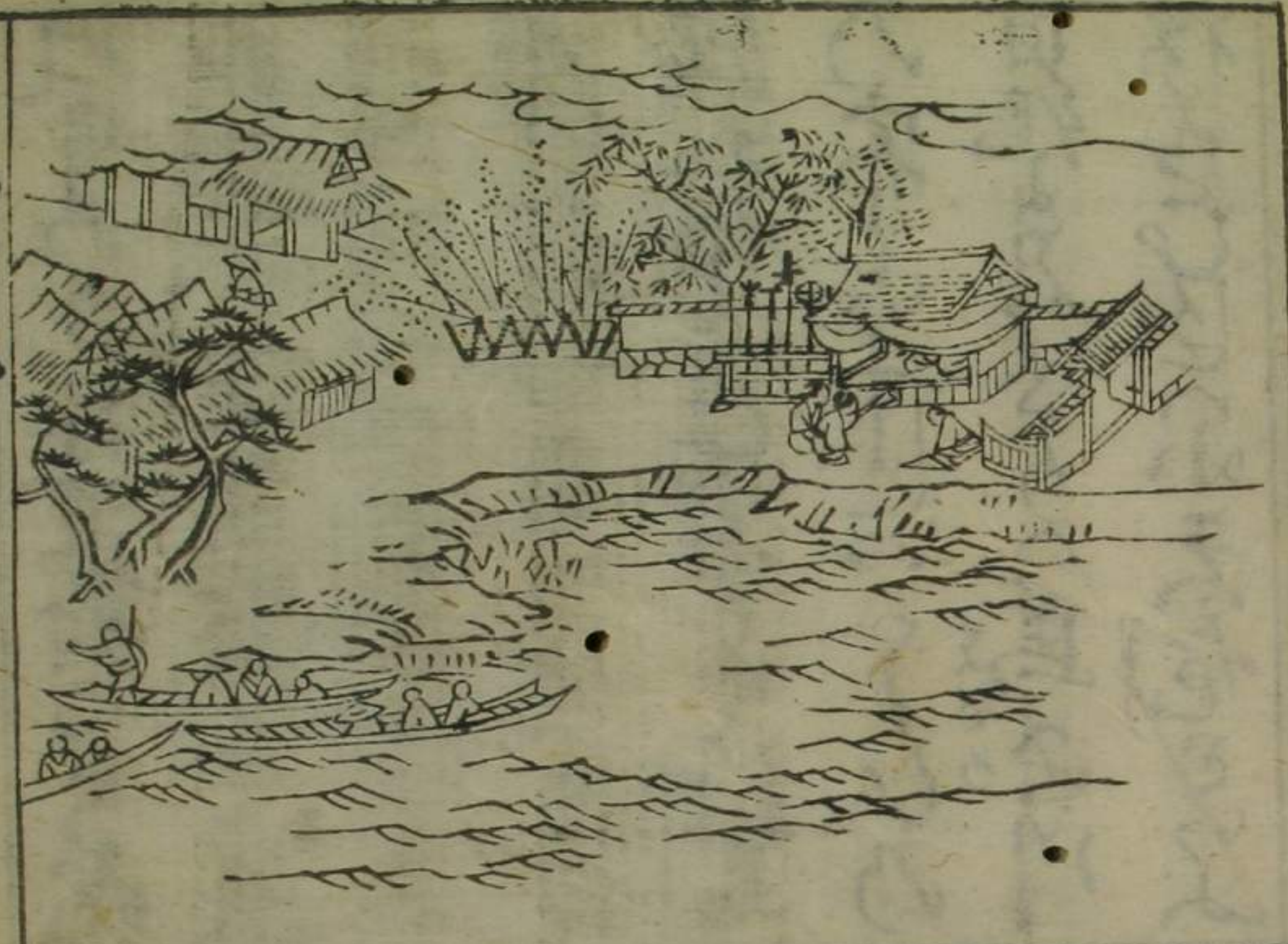
かんの京都の谷俣の赤牛
内屋のありとけいんはけり
のせりあつたりは赤牛川の
細くより赤牛川に子園子ハ
るまの赤あり○坂の下○
をくしてごうけんの坂すこく
坂あり

▲赤坂を渡れ二宮寺に

▲黒坂より渡れ二宮寺に

舞妓あつてはゆきと
 つくまらふ其のたのたの
 観音寺ありて大慈閣あり
 顔わつし観音ありて
 道の記よきるきりて舞妓
 とはいつと有観音寺あり
 といいたよ引付細いありと
 ありてふも一芝居の二首

舞妓の町ありては
 岡部六郎を忠澄とあり
 といふ屋敷と古伝あり
 敷の伝り武蔵の番あり
 ○新所○横打村川橋あり
 ○横川村ありけしはあり
 大田中橋ありてあり
 やりて○水あり村ありあり



うまあり○中へけり○
 白子村をよるあなを家
 けしきやなな引付あり
 田中橋へのはり道あり○
 新所川ありてはあり
 つくあり
 ▲あなあり
 八幡八幡のあり○あり

此奇あり○蟬村○さ塚
村たよ飯○篠塚村○若林
乃わたり○鳥井繩しつめあて
▲濱松同家○見付地郡○西里八何
濱松城のじり宿のや馬
乃宿とらばしりし乃
切紀まごめ○馬まごめの川
松のじり小天竜とら

鳥帽子あひらの川
○さざり○水乃池を流
水は○ささ○さざり
○せわいしつ浦がさりあり
○瀬戸せと後新小蓋かぶ歌那
小西刀せとあり是らせと川ら
後義教の富者貞の死は
先考らと不路のそらと

○天神町○植松村○吉田
○新橋村は西の方味方系
さつ野も昔 東照君
濱松は城の河内田佐玄甲
引り先鋒 東照君
清忠人々戦いありあり
○安岡あのみま○町尾村はあり
たさとれ西の人林家之

乃上南とらりまふて年
夏之森を袖と相模の國
小田原せとの中へ遠江紀
徳田はとて徳川の流し
を合とてあれ也○三國
○さざり
▲徳田より金谷へさ里
さす○大井川流花はさ

の中記

の中記

○中野○一色○とて向市○

天孫河天孫河は信濃の長瀬あり

乃紀よむまのあつ川とて

○池田宿湯谷親より墓

ありしうみ川よりまゐ

みりしうみ川ありの記よ

るくく池田宿よりまゐ

古きく池田宿よりしう

大猪たうまるとて田中農園乃

集より流まじりて川後河

遠くの界也とて丹州水とて

河より流まじりて川

を流り色尾とてまゐ

あり川を流り色尾とて

金谷より色尾とて

田中あり

踏馬坂小町のあり方ゆ

今の中泉のありてあり

ゆ也踏馬坂は足利直義

初田義貞と戦矢緒乃

軍被きてしきし所なり

○足や一色村○中泉者い

る源とて富也○あり方み

ハ後富也社のしり方

▲金谷金谷はあり後一里

今昔のこの証訪のあり

ある所あり池田宿あり

城を築けり川のあり

よまは流あり東照君

乃軍全とてしきし城なり

流をけしてつとてあり

いと昔田中下城と明後

みほ同浦とそをみる池
わのたふもまきこたれ方一
里計わぬくは楊う池と
つるの源空の師殿えいぜんの源
光阿因桑は池よ今龍と
かろくあつていふ
▲見付日見の繁井一里を
見付は里のまの奇りあり

とてのつれぬ城跡今も
れ所の上の方のわつたは南
みわのじと下り横波がまき
の東は長サ六里ありとて
横波がまの海は池一〇菊
川のみはまをたふとていじ
後鳥羽院清河ゆ久の
私に中法門中細くまひ

沢原和尚まをけりたるの
紀よりん法をれ國府やわ
まの足付の里の遠江のゆ
府くろくろりの宿東に八
りふ坂あり其坂をとりた
二所行のちりのゆまとい天
社乃社まを舞車といひ護
みは天社のゆと伝ふる。

いといひ人天下の事は
園裏へちれり宿を
詩公作るま菊川よりま
くまのまのまをまを
まろくまをまをまの方
小まろくまをわりのまよ
の中ままろく都のまは
いぬまろくまの中ま

乃中已

鷺去ささぎぬる世の橋をさる
 ころの橋といふ。○足付の臺
 留まらうとも。○久保村。○
 みるの坂たかねの方。○三番井橋
 あり宗孝親王の宮あり。○
 而此村は平なりたなひ井
 村と古の病令に橋やま
 ○市京又いふところありた

ぬるのあはは呼あまこ
 けりともいふやと強り
 ありぬあひい合をう統
 ぬるやのさうらによお中
 ちあつて夜あつる中納
 之師長も通國の僧えんと
 ち終るふそ氏とよの
 ありとやうゆりまるとそ

け方あひだのの記よま社をより
 心購の記よま社をより
 ▲袋井が掛川、二里十六所
 あり。○あのだる寺とて一
 兼寺あり。○ふむ村ふむ村あり。○
 妙あひだのの母あひだのの母あひだの
 けりともいふやと強り
 ありぬあひい合をう統
 ぬるやのさうらによお中
 ちあつて夜あつる中納
 之師長も通國の僧えんと
 ち終るふそ氏とよの
 ありとやうゆりまるとそ

中あひだのの史あひだのとさやうに強り
 ころとも撰集いふとふ
 地とて作り深に夜終ぬ
 ぬらとそよきうとそ
 さやともいふやと強り
 ○新田○らつたけ
 ▲西坂り掛川、二里廿九
 西坂又新坂とも田坂あり

中
 中
 中

中
 中
 中

▲掛川より西坂へ一里廿九所
掛川城あり葛布世所のふ
物也○あまき川のあま細と
川をそ川をいふてあま
を背川といふあまの腹
川といふはあまの記よる
てり○この村はあまのま
住りしあまの今いすこと

は雨殿餅くら物くらけい子園
斎が詩あり○たのふら三
つあをくららふあくらら
くらひらららあまのあ
○あまの坂の古坂まのう
あまの地たをいふてはこ
あの中いそあまをころの
いふあまの田あまの地

いそ右に方に社あり○あま根
川○あまの地をいふてあま
の中あまのあまのあま
いそあまの田あまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま

けいこいそあまのあまの
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
○あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあま

▲掛川より西坂へ二里十六所

方いふららわらとらら
ふららららららららら
其名出るあり

▲西坂より金谷二里所
西坂又新坂たりとららら
餅名物也村い子園翁
を記す○まき○新田○い
よ林ふららららららららら

久まらわ中いあり
ぬりのぬりは師のまきこ
ゆへとあらららららら
とわいはいらららら
ぬらわらららららら
あつらららららら
師長の苗名の任とらら
まけるぬ土民とらららら

掛川城も高布は西の
物あり○かま川のぬら細
ま川まら川の川とららら
あたらぬ青川とらら東
をい腹川とらら長明
記ぬんららららららら
かつけ村○あつら○新田村
○新田○つら川○らら川

○あつららに浅間大をら
わり○ぬら川○らら村
はる妙日寺とらららら
日蓮の母を授わり○ら
ちよとらららららら
○わらや
▲袋井が貝付、一里所
あふららららららら

水戸ゆりけるそ中宮の
先達より舟に渡りて
よも撰集ゆり見及ぬ地
よそゆりし海に位程改め
ゆりてゆりし今もそや
ゆりてゆりし中宮人のゆり
○菊川の名も也古きゆり
昔は名好院浄土兼久

方に熊野神社の社あり
光廣の曙の記よ家社と
よあり○西宮村はあり
たよ宮井村の名も今
おほしゆり○三番路橋
ありよ名も親王ゆりあり
○みりの坂 たよの坂方 ○太保
村○三本松○見付お臺

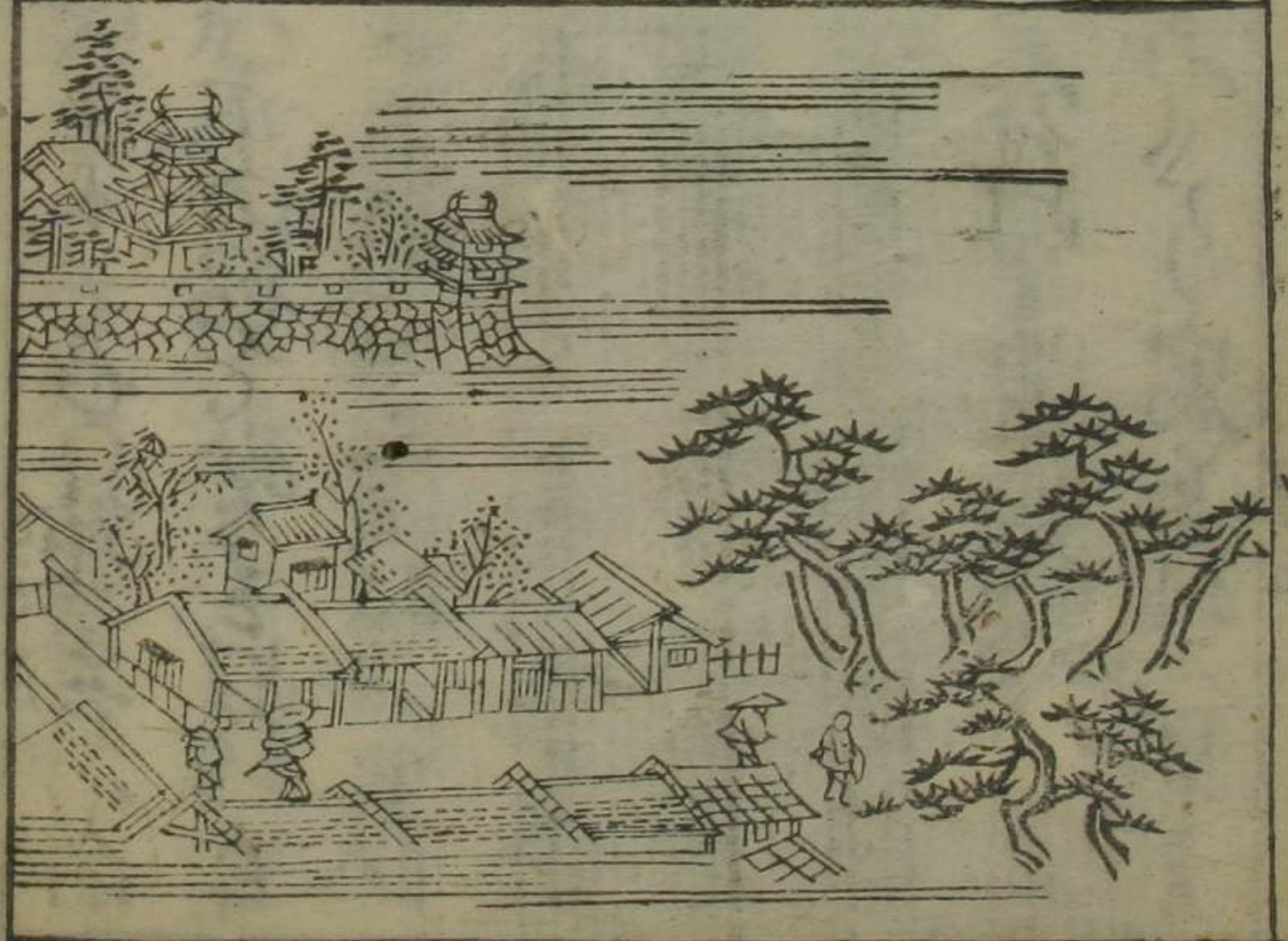
の記よ中宮ゆり中納言宗行
ゆりてゆりし人天下ゆり
つり園東ゆりゆりゆり宿
ありゆりゆりゆり菊川を
ゆりてゆり方いゆりゆり
ありゆりゆりゆりゆり
乃ものゆりゆりゆりゆり
▲金谷 同巻 名好院を里

富士ゆりゆり○藤馬ゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり
▲見付 同巻 名好院松四里下
見付のゆりゆりゆりゆり
庵和向ゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり
みゆりゆりゆりゆりゆり

中記

四十九

今右のよに誦訪し來て
 長とつりて武田信玄の
 城を築け別の^や武田の
 つまみ^{いん}武田の^{いん}武田の
 軍士見せむ^{いん}武田の
 詰みしておさむゆ^{いん}武田の
 計る^{いん}武田の^{いん}武田の
 海への^{いん}武田の^{いん}武田の



谷の所はよ乃方なるの
 あいさじとす^{いん}武田の
 北東の^{いん}武田の^{いん}武田の
 横江が^{いん}武田の^{いん}武田の
 川風生^{いん}武田の^{いん}武田の
 つと甲斐^{いん}武田の^{いん}武田の
 出る^{いん}武田の^{いん}武田の
 大井川の^{いん}武田の^{いん}武田の

坂ありとれ坂を^{いん}武田の
 舟の^{いん}武田の^{いん}武田の
 舟車と^{いん}武田の^{いん}武田の
 東と北^{いん}武田の^{いん}武田の
 北方の^{いん}武田の^{いん}武田の
 方お^{いん}武田の^{いん}武田の
 りぬ^{いん}武田の^{いん}武田の
 あれ^{いん}武田の^{いん}武田の

中

五



源之師殿えい源之阿闍梨
 池いけよふ龍りゆうくさくさりりいい
 つふつふ○中泉ちゆうせんじじいいふふははよよ
 てて宿也しゆくや○ままやや一いち名な村むら○ままそそ
 のの○まま下した宿しゆく○ああららりり○池いけ
 田宿湯たしゆくゆ谷や親おや子このの墓むらありあり
 ひひいいいい里さとをを流ながすす川がはりりああ
 小僧しよそう下した宿しゆくのの記きありあり



ころ池田宿いけだしゆくのの記きありあり
 昔むかし分ぶん付つりりああののりりてて流ながすす
 坂さかりり池田いけだへへ出で今いま今いまの中なか泉せんありあり
 町まちりりててああららりり之の路みち邊へははいいはは
 利直義親りちうぎしん田た義ぎ貞さだとと戦いくさ矣や
 矯たかのの軍ぐん中ちゆうありありてて引ひきき下くだりりててああららりり
 ○天龍川てんりゆうがは系けい後ごにに修しゆ護ご訪ほう
 乃すなは湖水こすいのの末すえありありとと明あきりりたたのの

此の市金吾市より川を渡
 して入る者橋をくはり川
 へく者も水清し。○此の
 ▲此の河より若枝、二里
 さらし。○三河や。○せとわいの。○水
 の。○をた。○水の地たが。○
 さらし。○灘戸へ橋を架け渡るは
 甚だ難し。西の方には水がせし河

記よあまの川といふ。○
 せん田市。○しき。○はれり
 ○河原村はあふたさる。○乃
 田とふ山は案と。○安間
かんま 浦冠者りくのかん 冠者のまは
 とらひ橋つり。○橋は村は市
 よりあふたさる。○乃
 田とふ山は案と。○安間

此の義教のつれの記義教
 なる路の記をたはし。○
 天正十三年夏、我々御交換は
 小田原より作方の記、清田城
 まで渡り、川をくはりて
 一也。○水の方にはあふたさる
 也。○あまの河田よりあふたさる
 市よりあふたさる。○乃

此の河の河武田位去甲列
 より出流し。東照君涉
 家入と我ひかり。○あ
 ぬ。○植松村。○天祥所。○馬
 川橋をくはりて。○小
 ▲植松同後 地郡 方 若枝、二里。○
 淡松城あり。あ社大明神。詔
 訪明神社あり。宿あり。○馬

此の市

此の市

▲若枝より豊後一里供六
朝は赤川を川上た船は赤
やいふおわりの○白子村を
ほて若枝よりあつてまわり
あよ引樹の松わりの田中城へ
乃津成る也○あつてや村
○八幡川橋を極清が衣へ
田中城へ乃乃わく○水森村

乃宿よりいしむいしむ日
記よりいしむ○鳥井縄子○
あ林のたなま道はわりの○そ
う○さ塚村を諏訪社
わりの○志のり村○坪井村
○森坂はあまはゆんごり
やいふおわりの其すくふたれ方
親善堂わりの大徳園乃

○横打村橋わり
▲豊後より鞆へ二里九
豊後の甲名は道豊後小
岡部六跡を忠澄長けり
やいふ虚夜を六跡を
り屋まの松の武蔵國乃
豊後より○守越の谷倭
乃抄し内をわりの守越

額わりの親善堂を長明の
乃記よまろりり豊後と後
いさかとも親善堂よりあ
あよたれ方に引細に有
帯ねていそく光慶の二
首のあわり
▲若枝より約長廿三所
進んで大徳寺後一里

むりも南小向池あり
乾の角いさかに長き墓あり
おのれ方にありて天ちか松山
わりの山とあるは日月峯
ありて委くへ附録をせり
こころり○こ越はにけ里
の長うひりありて鎌倉
朝めけりいなり二夜中將

乃橋内といふ者溪あり
湖ありては團狐遠のわ
とくまといふ略してはた
足といふ都小をた水あり
やといふをありては遠に湖
の辺のあり溪あり橋あり
名乃湖より海へ流るあり
川ありて橋あり光孝天皇

守瀬の後の事母人けり
まふありてありてあり
たよる林あしや霊社を願て
名品二を小社ありて人
ごよ見の徳ありてあり
十二支ありて墓のとい社
を立志ありて芦尾は馬よ
系ありて文の始はありて

皇仁和えのいさかみ詔ありて溪
名の橋とけりといふあり長
さありてありといふあり
わあしや枝葉略記ありてあり○大
らといふ○ありてありてあり
世人ありてあり
▲白旗同後名那ありて二川二重あり
ありてありてありてあり

三十一

五十五

○阿蘇川の日記
 越えてきて兼利川を
 渡ると今いわ川と云
 水と別なれはゆるき
 合へるは阿蘇の山道
 阿蘇川の方をたぬまは船
 乃古坂と云ふは甲斐
 浦吉野向井仔変楯

やまありと云ふ○潮見坂
 安ら富士の寅卯に
 足代為家以光廣に
 是下り富士の麓に
 一やんてらう○師ふ
 方多し○山宿○猿の馬
 場○境川を冬乃界也
 じもあつらんりの松林

と杉平甚なる山家
 牧野古く元康成政落
 一也杉船と云ふ山家
 かろり又阿蘇川七八
 川より流あり木松乃
 水より方山は方山
 又阿蘇川乃る道は
 あり雲白く遠く



乃中記

見ゆり是甲斐の白峯
ゆり平家物語中表海
道よりいづこ越えりて
ゆりいづこをさうりて雪白
さうりゆりさうり甲斐の白
根といふゆりゆり阿波の
市万葉いづりゆりゆり
さうりゆりゆりゆりゆり

▲二川列々吉田二里半町
柄沢○火打坂たよる巻た
わり○大志村○いじり乃
巻屋○二連木○ゆりゆり
川○
▲吉田より御油二里半町
りたゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり
▲府中が尻二里半九町
法間の社も是れ不二法
間乃新宮なり延喜年中
富士寺多分定に勧修
と東照神君御記
有社あり東社二所あり

ゆりゆりゆりゆりゆり
矢玉たゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり
川矢新川おちや川とてこ
ゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり
室のゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆり

わりの郊は向ひ栲社あり
まに小向ふ山に宮を壇たぐい百
四級あり内本あり山あり
あそここまひいりあり商社
まはらりありいまはらり大社
あり向ふに社ありいまはらり
がらまはらり之と第一と
法向社第二とありと云社

との位別りあり松篠の根
を流る滝川たきのまをあり
老川の里の川よりあり
一里ありありあり志加須香
乃後はい川下き里あり
あり方ありありありあり
知人あり○小松原乃観音
伊良真湯い毛呂ありあり

領六百石あり社宮あり
宮方近地社ありありあり
人の法向の上のありあり
豆横まめありありありあり
後府の法向のありありあり
威統一・東照君清徳
居あり其年七月二日
家ありありありありあり

お皆見下りありありあり
又はいりありありありあり
子ありありありありあり
村○よんや○ありありあり
けいありありありありあり
石面村○小坂井村ありあり
まありありありありあり
ありありありありありあり

中記

中記

大猷公は清少後河内親王
忠長以後の田中安房千五
石公領して安房長城
と云ふ事なる定乗と云
ふり清少長盛と云ふ。○久能
と云ふ東照宮のわりの社殿
三千石ありと云ふけり。
東照宮の森守り地也

親行の紀行より人時と云
一宮半久保の是よりたれ方
あり。○たれ方の後名抄よ
り。○かき。○はら。○所
都東也。○たれ方の後名抄
賜つて海たりと云ふ。
團府村たれ方の後名抄に九里の煙巖
と云ふ事あり。○たれ方の後名抄
あり。○たれ方の後名抄

後日光山いさやのつとを
久能山中は久義皇子乃
諱をたけて政乃と改書
より駿河風土記よりあり。○
横田なる清水観音堂に
○ゆがりありと云ふ。八幡山八
幡宮あり。○たれ方の後名抄
よりありと云ふ。長明あり

風本かき
東照宮の
間村たれ方の後名抄のたれ
後松へ山あり
▲清油いさやの赤坂十六町
竹倉ありと云ふ。たれ方の後名抄
神ありと云ふ。赤坂のたれ方
ありと云ふ。たれ方の後名抄
▲赤坂いさやの赤坂十六町

の死よいはゆかりりり墓
ひくさりのわりの長治村ねま古
たのころの古高村のむら
草薙村大路の十所余のあり
明神の延喜式に後河
國草薙神社といふ是
かりに京行を言ひし時
日本武尊の東夷と征伐

長は古橋路あり今川家
小倉及び高尾城等は赤
坂のひきもほてふの赤松
多く見えてあるは松より
ゆゑに八王子村の松の
お天松と 権現様御
けしにてわたりしもの
よりけし松の松の

の天将として東國へ下り
信のゆいすを夷と
火攻をあらしてとて焼殺
さんといふ尊とあるは
寶釵といふて草薙
とらひあるは火攻の方へ
のえて款として焼殺
とらひ寶釵と草薙乃

その他り或書よは後府知
源院をいふあるあり
其御札の松の松の松
お天松といふ東の松の松
り志ばの松の松の松
東の城の松の松の松
やと松の松の松の松
まら松の松の松の松

知といひはけり也終よ
其申は社を立見と云
志りおきなるいひをそ
の万葉集の焼津名を
とあり○岩倉村なり帆
かけふいささしらの根原
が墓あり○追分村の
方に築の池あり○いささし

やうに宿ありと云きり宮
路に伝ふりて申との
こいひに持統天皇御書
おきまひて筑紫ありと云
たまひの地中といふた
果下り乾よ其河のた園
ありとも云ありありと云
井とんつと云地いし橋り

▲日備尻余郡身持一里二所
はる大井方有後乃溪群
奴負の浦いりたの唐系た
の清見沖津田子系二津崎
り系ありと云と終よつと云
てすとのをすある名を以
といふけしむ○二保ねり
二保式いし秘傳其勢方保

と終よ乃跡ありと云井
せつと云と云ありと云○
まの末古橋ありたよ八橋
あり
▲若河より築あり一里半七
果乃のたよ夫久保村坂崎
村たよ土呂酒井村いしと云
若河をい也○かんと云

徳方たりきりけし一里四
方けりあり河の中は沙
徳社を後河風土祀り云
而宗文に貴命あり又
市に徳は表沙徳は比年
命ちかりとけり色なき浮
徳系郡なり又羽衣乃
社の幸向風土祀り沙

○た右田のた沙茶屋あり
なまふ村あり○本年村に
橋ありは川せういありわ
川といはは川より二里分
川の方古良の海なる小
豆坂といふあり又文十
一年八月十日今川義元と
織田信秀と在然河下也

徳社の離宮一車塚
面社といつわりこの形
車仏ありまると羽衣と
いつありしとけり○
あは深川橋あり○房京川
から後りけ川といはる村
わり頼朝の河原京あり
う橋より西ありやといふ

○かきのみ
▲鳥居より池に龍神の事
鳥居城なる所あり松葉
川あり鳥居城東山の方小松
平井里あり其とけりなるか
みける松平家清先祖乃
信多し西之奥平といふ
松平に道し鳥居より大樹あり

唐東まゝ浮穂糸とあり
○崎うら川太の崎うらまゝ
を袖師の浦とつり駿河
風生紀より浮穂浦より浮穂
呉服の社ありて約七里
の回孤有後江漢といふ
法乃漢より東と袖師の
浦といふ所なりとあり清見

わりの成道云浄土あり願又
百名所の又の平野あり
は牛久保より長崎あり
○鴨田教田井のけしき
たれ方の平野あり
○とろろ村の矢橋橋式
百八間あり○矢橋宿津瑞
瑞乃石橋道乃たぬあり

寺巨勢軍心求玉院也つ
聖一の身子用本禪師の
昇基也密教よ雪舟の
わりをいふから梅樹を
堂あり終糸也○清見の園
の松田子浦
▲興津同由伊二里半
興津又恩津興津沖津

○矢橋村のくれと○物
尾橋の
○大深寺ははまの足
わりの寺あり寺あり
色に近し○のつけの今村
○半田村獲奈波の村乃
社あり半田の寺あり
より五月七日と馬市あり

中記

○七ヶ坂太のやまふま吹
上二平松あり○中山村
○新河向東山池とて又
○岩瀬左のり身延ふの
たまり○富土川再渡りけ
川は加八ヶ嶽よりかきしか
申引もきて釜屋に神川不
川をく流公かゝ大河を

義之を付るる事よ義之の
墓をいじの南木桶狭間
あつた村をいじ石井ふみ
けつら千人塚とてせよ
人首塚埋しおつら○あ
松木あり○てたぐうはか○
中橋は橋○身海太乃方
明海の古塚あり石照子の

あつた海乃方一の事海あり
中世に舟川の川より海
かゝ後流わかれの流は海を
かきつらよは又あつた乃吉
あつた海をいじりあつた川
とつた也川のたけは海か
あつた実相寺とて行る○
富土川たつたつら無着

岩の森とて名は海をいじ
たれ方いじ海乃古塚とてい
名をあつた乃吉浦とてい
▲明海尾瀬が宮八甲斐
からいじ海乃妙女海とてい
○たの方いじとてい海とてい
是れ方いじ海乃方い源
の義朝とて長田方い付

中記

中記

別当の奥造り東は將軍
 兵は兵と語りあり
 平家おくと水ものいこ
 かりお音ふおんをほ氏
 將軍兵押あつりおひて
 あけお也○おひちい○いの
 本○お松村○お松村
 浦原より二里の安にあり我



足守の社ありま地りり又
 六所吉系れ方よりそをの
 方久保といふ所福を求むと
 つふふ足守は墓之碑を
 ○お市場又川田といふ
 油といふ白酒をきた松林井
 米官といふおこうあり
 毎○お月始は流鏡といふ

おまう又蔵田と七位者いふ
 一七切腹をたふは伊勢おふ
 田のふお銀を金獄とありあり
 ○おまお銀ありお轉福といふ
 福をといふ○お屋を村いふ川
 のおおたの屋をおおたの屋
 一お也○お酒をいふ○お田
 ○おいこの酒をいふお海

○青崎の下のたふま乃
 裾野也○うら川はは
 文清のたふま乃流
 あり流しありははた
 ちを流久尔のたふま
 小六所のまを流る社
 あり○まを流る社
 ○たの方台徳も流る

河のあり方乃流るなり
 海の水をともあり
 名はたむまの里の
 乃ありあり浦水近
 風乃里り夜寒乃里小
 ありありありあり
 ▲宮田のまを流る
 此のまを流る

ひまのまを流る
 ▲吉原より急三里
 吉原の町延家八年八月
 六日海ありありは
 ありありありあり
 は波といふ也所乃人

中宮のまを流る
 狭田也○熱田社
 社午 白階九あり
 井欄組草雜あり
 あり日午武あり
 午に白階あり和洞
 月九日清結あり
 社○宮田の社あり

富士のふもと七所のかへ
ありて今どのふらふも後
天和のふらふの所あり所
地いさうして思わねて水災
わんまゝと思てし所あり
うりて今れ所をさきあり
其ゆへに東の方へし所あり
をさきあり社ありし所あり

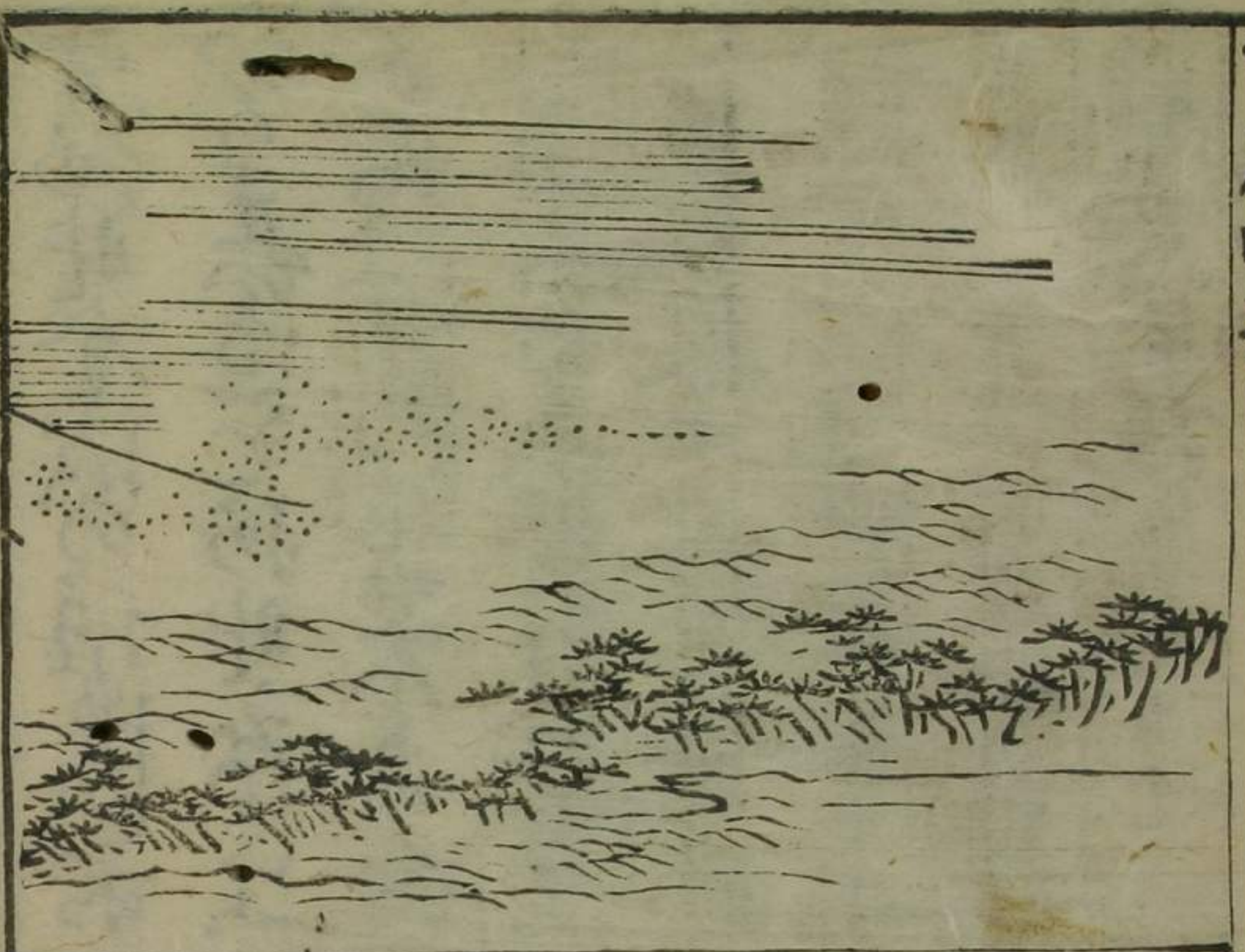
社といふ社裏四社に社あり
本社より一里半ありあり
同高村といふ所也今に説て
太る村といふ之の宮あり
お屋のふれりまゝあり所
はきこし里也○穀田より
社ありて川ありまゝあり
一里行也其道の狭くあり

近くありわらふのふらふ
町より七八町あり富士を
所より今れ所といふ村あり
は村ふらふをといふ考あり
篤實なる社ありの者あり
ふらふの附強あり中
古京の川合にしは川下と
三役といふは社あり

二里 はふらふ 社あり
よりる 尾城川の下 社あり
の東 八敷 社あり
すかご 社あり 社あり
たうら 社あり 社あり
は 社あり 社あり
九下 社あり 社あり
を 社あり 社あり
田 社あり 社あり
る 社あり 社あり

中記

中記



物おと懸く遠道乃人々
 多くあり集て見ゆる目
 本第一乃大なりふも是地田
 上の作屋(稲道)の志よ是後
 表吉この世ふ年何といそ
 の本といふか春清心の左に
 中村いじると也此はかき淡砂
 おくじきといふ万場のあか



中記

其坊を世ふかふは目医
 者の家也とい間より表れ好
 々いにかかえれおのの方
 をくもり也。は海尾尾仔
 地の界なり
 ▲新加坡 峇株巴轄 峇株巴轄 峇株巴轄
 峇株巴轄 峇株巴轄 峇株巴轄 峇株巴轄
 峇株巴轄 峇株巴轄 峇株巴轄 峇株巴轄

▲東より海は、一里
は、あしやう のまにり
足ゆるきなる上は、
大明神の社と明神馬
とをかきたるの跡を
石足よりこゝへといふ
のしし。○大畑村。○小畑村
東の方條といふ奥園寺

所中人が子孫に余り市
中は春日大明神の社あり
三橋大明神相殿とて海
まは毎年七月十七日
しきりといふ事あり又八
月十六日祭祀とて籠屋西
あま天宮と名置の社あり
階あり相殿一軒皆南向

海也。しり。今川の村
かりききとてたか破却也
らふ。○松永村。○飯沼村
飯沼神社あり。は
林は。松明神あり。○月門
村あり。○子松永あり。乃方
海つゝあり。いささ
つゝ精舎あり。きり地也

此社いづの。と。津見
乃天宮と名置。子にお
そつれみ。と。い。海
あり。○大畑村松明。○やと
永村。○所を川海。ら。い。永
い。海。の。界。の。也。○
水。を。取。○。を。の。也。

と我々今も親善堂あり
昔は朝の平家退討の跡
小松殿^{ちゅうくわん}孫六代は相承
してさうまゝ人ゆきやん文
差とて人頼りよん信て
船も亦也らゆきの相承と
てなほ也六代いらぬら
び運ぶもて種倉多古

此は神明ありは景
屋敷蛤多し
○かき村は雨松とて
橋^{はし}甲市^{かき}市^しとて
多村○東とみぬ○西富田
村○もしぬ○若川^{わが}
○らん○らんや○かいじ
川○さるや○えら川
▲甲市^{かき}市^しを^を都^{みやこ}る^るを^を系^{けい}師^し二^に粟^{あわ}の

河の東あて殊やん種
より其^{その}河^がは^は場^ばも○東
く^くの^の里^の長^の明^の道^の元^のは
多^たか^か相^あ承^うれ^い次^じは^はあり今
里^のへ^へ沿^え侍^じの内^のふ^ふも^もと^と云
▲沿^え侍^じより^{より}二^に河^が一^一里^のす
古^こ城^{じやう}わり^り水^{みづ}縁^{えん}之^の象^{さう}の^の比^ひ
山^の縣^{けん}之^の名^なを^を場^ば持^ぢり^りと

甲市^{かき}市^しは^は諏^す訪^{ぼう}明^{めい}神^{しん}あり
赤^{あか}城^{じやう}村^{むら}志^し小^こ溪^{せき}田^{でん}乃^の城^{じやう}跡^{あと}を
○日^ひ永^{えい}村^{むら}明^{めい}あり^{あり}近^{ちか}所^{ところ}に^に六^む宮^{みや}
見^みと^とつ^つを^を志^しぬ^ぬも^も又^{また}四^よ足^{あし}八^{はち}鳥^{とり}
地^ぢあり^{あり}親^{おや}善^{ぜん}も^もあり○退^{たい}分^{ぶん}
所^{ところ}太^{たい}い^い系^{けい}へ^へ道^{みち}わり^り東^{あづま}を^を侍^じ
勢^{せい}入^い治^ぢふ^ふ人^{ひと}い^いと^とね^ねり^り神^{かみ}戸^と
白^{しろ}子^こ上^{のうへ}路^ぢ侍^じは^は出^でる^る也○大^{おほ}

孝長より被^と都^とは
○沼^{ぬま}付^{つけ}東^{あづま}村^{むら}の所^{ところ}と^と被^と取^と
橋^{はし}と^と見^みる^る日^ひ和^わむ^む死^し
河^かの尻^{しり}の^の海^{うみ}と
七^{しち}里^りの^の宮^{みや}と^とあり^りし^しを^をき
し^しは^は河^かの^の尾^おの^の海^{うみ}
と^と被^と付^{つけ}の^の所^{ところ}に^に被^と取^と
と^とあり^りて^てさ^さら^らぬ^ぬと^と

高^{たか}曾^そ村^{むら}河^か橋^{はし}の^の所^{ところ}に^に被^と取^と
○う^う孫^{まご}村^{むら}○は^はえ^えつ^つと^と坂^{さか}
○は^はえ^えつ^つと^と村^{むら}○は^はえ^えつ^つと^と坂^{さか}○
小^こ石^{いし}村^{むら}○大^{だい}石^{いし}村^{むら}○鞠^{まり}の^の
原^{はら}と^と度^たの^の所^{ところ}に^にあり^り
▲不^ふ業^{ぎやう}師^しの^の所^{ところ}に^にあり^りし^しに^にあり^り
不^ふ業^{ぎやう}師^しの^の所^{ところ}に^にあり^りし^しに^にあり^り
不^ふ業^{ぎやう}師^しの^の所^{ところ}に^にあり^りし^しに^にあり^り

を^をい^いて^てん^ん存^{ぞん}り^り○沼^{ぬま}付^{つけ}の^の
南^{なん}村^{むら}河^かを^を持^も神^{かみ}川^{がわ}と^とい^いふ
伊^い豆^{まめ}の^の集^{あつ}まり^りの^の所^{ところ}に^にあり^り
持^も神^{かみ}川^{がわ}の^の所^{ところ}に^にあり^り
村^{むら}の^の所^{ところ}に^にあり^り
居^いる^る所^{ところ}に^にあり^り
向^{むか}ひ^ひ香^{かう}堂^{だう}と^とい^いふ^ふ所^{ところ}に^にあり^り

菊^{きく}面^{めん}の^の所^{ところ}に^にあり^り
○は^はえ^えつ^つと^と村^{むら}○は^はえ^えつ^つと^と坂^{さか}
○は^はえ^えつ^つと^と村^{むら}○は^はえ^えつ^つと^と坂^{さか}○
小^こ石^{いし}村^{むら}○大^{だい}石^{いし}村^{むら}○鞠^{まり}の^の
原^{はら}と^と度^たの^の所^{ところ}に^にあり^り
▲不^ふ業^{ぎやう}師^しの^の所^{ところ}に^にあり^りし^しに^にあり^り
不^ふ業^{ぎやう}師^しの^の所^{ところ}に^にあり^りし^しに^にあり^り
不^ふ業^{ぎやう}師^しの^の所^{ところ}に^にあり^りし^しに^にあり^り

上水の方一里斗の火烟
やういふ所の桃園と云ふ
ちとつとちと見と云ふ
法師をたすけし所也云々
りかろろ云々後流馬記
云々云々云々云々後自
自留の儀あり云々
云々我れけり云々云々

教の云々此馬の價白銀
拾四文云々云々後流
云々云々後流馬記
大將の云々云々云々
云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々
云々云々云々云々云々

云々云々云々云々
云々云々云々云々
云々云々云々云々
云々云々云々云々
云々云々云々云々
云々云々云々云々
云々云々云々云々
云々云々云々云々

云々云々云々云々
云々云々云々云々
云々云々云々云々
云々云々云々云々
云々云々云々云々
云々云々云々云々
云々云々云々云々
云々云々云々云々

中記

河の界也

▲三河の行界の舊根三重共
是よりお多入の道あり
又早より信濃の田を
いかり下回りの田あり
舟の志深より番あり
とゆふり十又里より
又及難有也下回りの志深

くろも人今も田の中へ
間四方の塚の地あり
柱わりのものだけ柱より
花根も也然るに地よ
ゆる也もものついで
ぬきの屋れれついで
○うたの○うたの○たり
まや

多利七十五里あり
をいかりあり○二つより
河の界もて毎日十二河より
くろ河守の町中へあり
也也○二つ狂い大い後
社より光仁帝の河守
福もこの河よりけり
さる社あり百二十石あり



石より坂よりとる坂○七
さふんは豆相換れ界標
かりけいふがふりつとふ
○詩を落しては豆の海見
ゆるそ奴の系官根路
そ我然らばは豆の海や
沖の小流よ流乃よるそ
や、強余ら大匠のちれこ

やきりしう○大園ち縄子
は北地系極てよる西○小
形村は村のちのふと毒を
出和素といふ名は也○園
は小退分または信長村を
▲園郡の坂下、一里廿二町
園市中又向る家又百町
余わりの家と園と云い、

や一○三流とここれ向
より大れ方の中は豆の
小系蛭が小流と終り是
乾羽死流乃あり蛭り
小流の河の中はありゆか付
其東のありふりこれ
小田系障の河小系乃増
嶽也進ふはるこは河といふ

相坂の園道はよる流麻乃
園は勢のふとる坂の園は流
小あり是を三園と云ひ、
流麻の園ありといひ、
宿れ中の園と園氏歴代乃
城はわりの宿中は地流を
又園方かた越え入つ出う道
わりの序か境と二里あり

里のりつ河浦とて分物也
仔細といふやあり

▲箱根箱根が小田原小田原四里ハ

ところのりつ水海も是

と昔の海といつうの御

園所○さの河原○八河板

なる箱根権現箱根権現のあり

権現権現の表表火火と出見出見も也

かき又藤藤伏伏免免とさう○鈴

藤川藤川或或いた流流まありい

ちよさされい瀬瀬ありうも

て八瀬川八瀬川といふ是也さう

後○一瀬村一瀬村○さうむ村○

新常新常屋屋出出水水四四里里あり

をさういふ

▲坂下坂下那那が木木心心二里二里也

孝謙天皇孝謙天皇天平天平室室の

中中の万万巻巻上人上人始始て遺遺を

ふのらりふのらり山山東東平平泰泰耐耐再

興興きり社社飲飲二二百百名名けく

権現権現の事事并并名名我我足足才

け刀刀ありありのり毒毒附附録

おとさりおとさり家家に贈贈と○向向あり

坂坂下下二二子子ありありね撰ね撰集

坂下坂下しつゝしつゝ山山藤藤原原の坂下坂下の道

小小巻巻と云と云二二百百九九十十水水難難の

よりて家家に後後きり○二二百百の

たれ○藤藤原原の坂下坂下十十里里金金の

より藤藤原原海海世世寅寅はるる明

神社神社の神神の天天武武天皇天皇に

約約魚魚ありありるむ人人とては

世人世人のりてありありる藤藤原原の



村○落合川

▲石部郡から東へ二里まほ
 石部社の古蹟大明神と
 して○こよふに保む
 くと○こよふ其かゝら置まふ
 似てふ○こよふ○こよふ
 ○かゝの○六地筋○梅本○
 おの村○こよふ村は里れ名

▲小田原から大磯へ四里

小田原磯あり○こよふ磯
 一色村○酒匂川まると川
 とよふから磯の富士乃
 すそより流るひ川た一町
 とりして海へ入ひ川とよ
 曾我中村とよふあり○酒
 匂村○小やうと強○若原村

お付て世人のいひ物より

俗説共に開巻一巻に
 異域同日の疾を記して
 里○湯里○川面村川の
池あり
 ○りく袋村○月川村○あり
 ひく○新庄村下
あり○若
 原川村とよふと金橋と川下
 あり月川とよふ

しとく床よあひの登
像わり木下古塚の伴般
筆にて賛り前住妙号
雲谷硫油うまう

▲大塚の平塚(七七所)

大塚はもと小鉢後乃
破く云ふは也○室の東
は下は虎うる云ふ

丙辰紀の事ふ詩あり
○山下宿虎が中まき
たまふ○十回板○多
ちん移記社わり伴是
現あり也穂耳尊あり
は名ありにしう多也
かり○これ移家ま
えて好系也字と同有

い麻は西の飛後
り○雲谷の岩南と石
の間より四月下旬のは
若より巻く小堂殿
飛ちて橋の南より飛
敷方の雲又一所其
丸くかへりてをわ
そのまわり水の上

て敷くは毎夜ぐの
くで漸日松井て川下
くろ字治とてい月と
向乃は雲多くあり
やとり○鳥居川村
雲のまわり大夏白
君弘あり○新田と
乃回葉は不きり

中記

中記

菅乃より一りて葎後

▲平塚より後次、三里

足下り武彦の厚本、仍

乃わりの生子、又は乃乃

約じ、一奥列、約じ、

乃乃、乃乃、し也、一橋村

たね糸の鶴が、峯、八幡

わり、馬入村、入川

四谷、平乃、墓あり、一膳

新城、乃乃、わり、松本、松平

大井、い、三ヶ所、八所、け、と

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

舟渡、舟渡、舟渡、舟渡、

甲別、松橋、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

乃乃、乃乃、乃乃、乃乃、

びおたの方より河筋ふ
 大ふちへちなり○ちり
 ○あま地○東田くはる
 南に流るゝか
 ▲あはより千塚、二里
 友は河のたふはきこ
 通上人乃開基河家乃
 ちる清浄光寺とふ



○はまの白旗の神の義
 経の着奥列の鎌倉にお
 ころりはらるゝて定換の
 ははの納りり社也
 社のあまをまう首塚
 あり○は地よ小栗塚と
 てる塔を今より三百
 年あひ二に里奥の

志がまを誇のひらねと
 村まれと乃を名ふまは
 ねまかり
 ▲大津日本の東、二里
 大津河較九十八所を家
 四子新倉あり○れはた
 けいを并さく出る○八所板
 ○南明神は神八輝九也

八中

八中

小栗山と土清山より小
栗山半井のいはく
くつてはむ。たゞの虚説也
あら書よりいふと云々
半鎌倉志よりいふと云々
も後をいひて詳よむる
○是はよりいふと云々
わり是はよりいふと云々

やうに社は社のまの園の
清水とせむは古人の
まは園の法あるやうか
らと云々いふ。○園守
り多岐のまの園にあり
はと云々の相板と云々
乃小川のまの園にあり
の寺にありと云々

約は後の橋のわたりて
越より後楽寺に切通
あり三里中より甘徳
の建長寺ありと云々
あり二里あり是はと云々
約二里あり是はと云々
上下よりありと云々
三浦のみありと云々

坂よりいふはゆの園の小川
乃花のまの園にあり
寺にありと云々
川のまの園にあり
ありと云々
音ねのまの園にあり
ありと云々
乃と云々と云々

中記

中記

橋のありしつらきなり
 ○系宿古の方にむすば
 前守殿所領玉繩もあり
 一里むすけり○八幡所は
 西之塚の墓なり
 ▲十塚分新所二里九
 各所○吉田村○かど
 ○たごや○品物坂○かま

能くしるはゆり又は敷山
 ありありせり○つらき
 お坂ふたり又を坂より
 支園さあり道はせり
 地よの境されりみりき
 しきり大なるる佛の
 業師あり行基の園
 基のよりしはけり

けら坂○中村○系宿坂
 佐木村相換武蔵の界也
 ▲新所 武蔵在 系那 分新所二里九
 けら坂のむすけりやを
 ぞり宿ありしとをきき
 けら一所は移りけり
 新所といふ是も合次か
 まりしりたなりあり

○大谷小をり井今南ぬ
 わり○けらつらきか○道
 分たの方休しへ出ら道
 かり○橋本る橋あり
 小園越とて三井さの下
 けらけり出らあり○
 中禅師○六地蔵○法
 羽大明神社ありあり

けら
 けら

けら

くはくく絶約よりくく
えくく附録母生よりくく
おひまけののけ村

▲新奈川が川橋二里半
うみ川巻の巻屋風巻
双かり申有ふ苗て富土
ふくゆうのたの方ま橙現
ふくまの富土人先在程

くくく仁田山常
くくくわにわはくく新
宿太の海巻の生巻
くくを本牧の十二天乃
本くくくはくく本牧の
伸くくく子安村の生巻
○新見村河橋あり
市場村皆海巻也

中記

玉命とまらまきふく

くくくはくく門
跡ありのた方に護國
寺くくく日蓮宗の後
ありありは巻たの方ふ
法ありの下よりあり右
越ふ出くはくく出る
ありは道と若集滅道

くくくく○救の下は
巻くくく科ありふ
科八郷あり○海濱
あり凌村といふ村を
天智天皇れ海濱有
水鏡くくく天智天
皇十年十二月二日帝
海馬くくくありて

中記

▲川邊より畠川二里ま
川邊出の十里斗志方
小大師河原のりま
あり○六の舟渡一池上
なまも六のりいり島
乙辰紀約とせり○
河邊の川舟大橋を橋

わくして林の中へ入
うせむらわらはくよお
とくといふ事なま
とく只津幣の落り
を降しとせり○
○四宮河原仁明天皇
第四皇子人康親王
と莊乃田終り今

の山六つとていふ川
傍ちりい川上依合川
やうき言向乃後あり
尖口の後をさ尖口乃後
い初回義真の教世し
西也其西とてあり新
田大の神の社あり其
よめい○指系あり又

寺あり袖うとていふ
西はるる○日の岩飯
あり日乃岩とていふ
元徳の中日若
幸紀より檜園とあり
これより三系橋とて
一里あり○杉飯日の
より栗田口へ出ら坂也

玉川の里と古形か
やういふやと入る川乃
かろりむきとらふ○六の
村たの方と編毛とらふ
○さしき村○漁田村○
本妻村○沢田村○やう
村○六のよりさした六七
とらうたの方にからうい

○義経けあきとる水乃
乃たの方にかり○粟
田ふらふはちりけ地愛
宕那と定治那との
境かり○たのふとら
夷谷社明社あり○
粟田口と本國よりとる
り入口かりたと粟田

いふやの者い入海か
とて皆さうや今の回富と
がら源家も別れた白波
のわい乃流れとさしれり
りぬ名は今もつゆを伝
とらるるあのはし○流々森在
京都不入社といひはあ
はは流社といひもとる

口天王社青蓮院門
跡あり同方とらま將
軍塚ありの道とらま
とらとらとたの方より南
禪寺と黒谷と黒谷寺
右回白川の方より
道あり○白川橋け
川は白川よりと出ら也

乃中記

乃中記

川を海色小舟つゝは福崎
町と云ふ舟がはらしてはる
物と見せなき者との海
畧ち楓樹カエデの株のころ落
ちる葉は花のころ東海
町けたのちのあり

▲品川が日知橋、二里あり

橋をいり南の方より
知恩院祇園清水へ
ゆゑみらあり。○三系
大橋長と六十一間
半此川が架が川の
下ありと。○

東海道諸宿

神保三初宿

京今宿、三里

かだらん 九十里 人ぞく
百六十九文 九十里 四十九文

大津が宿、三里半

百四十五文 八十二文 百六十五文

多摩が宿、二里半宿

百四十五文 六十二文 百四十七文

石段が宿、二里半宿

百四十五文 六十八文 百四十七文

水口が宿、二里半宿

百四十五文 六十八文 百四十七文

品川より大板迄諸宿

上宿

日暮橋が品川、二里

かだらん 九十里 人ぞく
九十四文 六十四文 四十二文

品川が川橋、二里半

百四十五文 七十三文 百四十五文

川橋が神奈川、二里半

百四十五文 七十三文 百四十五文

神奈川が新谷、二里半

百四十五文 三十三文 百四十五文

新谷が戸塚、二里

百四十五文 三十三文 百四十五文

五ノ中

甲山分坂下、二里半
 百六十九文 八十九文 六十一文
 坂下分園、七里廿八町
 百十七文・六十一文 三十一文
 園分多母山、七里半
 六十九文 五十三文 四十四文
 龜山分庄野、廿里
 八十九文 四十九文 三十一文
 庄野分庄野、廿二町
 三十一文 十九文 十一文
 庄野分甲市、廿里半八町
 百六十五文 六十九文 四十九文

戸塚分後沢、二里
 八十九文 六十九文 四十九文
 後沢分平塚、二里半
 百六十五文 百六十五文 七十七文
 平塚分大塚、廿六町
 三十一文 廿七文 十一文
 大塚分小田原、四里
 百八十九文 百七十五文 九十九文
 小田原分新根、四里八町
 百六十五文 三十一文 三十一文
 新根分三河、二里廿八町
 百六十五文 三十一文 三十一文

甲市分桑名、三里八町
 百六十五文 七十九文 六十一文
 桑名分桑名、七里半
 三十一文
 三十一文 三十一文 三十一文
 三十一文 三十一文 三十一文
 三十一文 三十一文 三十一文
 三十一文 三十一文 三十一文
 三十一文 三十一文 三十一文
 三十一文 三十一文 三十一文
 三十一文 三十一文 三十一文

三河分三河、一里半
 七十九文 四十九文 三十一文
 三河分原、一里半
 三十一文 三十一文 三十一文
 原分原、三里六町
 百六十五文 八十九文 六十九文
 原分蒲原、三里
 百六十五文 百六十五文 七十七文
 蒲原分由井、一里
 四十九文 三十一文 三十一文
 由井分三河、二里半
 百六十五文 百六十五文 七十七文

河田と花枝、二里

百七十七文、六十百文、三十九文

花枝と葛城、一里

七十九文、三十八文、九十八文

葛城と鞠子、二里九町

百四十九文、四十九文、九十八文

鞠子と府中、一里半

八十二文、四十九文、九十八文

府中と江尻、二里廿三町

百七十一文、六十文、四十一文

江尻と仲津、一里二町

四十七文、五十九文、十七文

高野と赤松、七里半、河津也

の合軍文の物に定ふを後百九文

赤松と白市、二里八町

百四十一文、五十九文、七十二文

白市と石室、二里廿五町

百四十一文、五十九文、六十一文

石室と石室、九町

三十九文、二十九文、十七文

石室と石室、二里

八十九文、五十九文、廿五文

石室と石室、一里半

六十九文、四十九文、三十九文

仲津と由利、二里

百六十二文、六十文、四十一文

由利と蒲原、一里

百四十九文、五十九文、十九文

蒲原と赤松、二里廿八町

百四十九文、七十九文、四十九文

赤松と赤松、二里半

百卅五文、六十九文、四十九文

赤松と河津、一里半

百四十八文、三十九文、五十九文

河津と河津、一里半

六十九文、三十九文、廿五文

関と坂下、一里廿四町

八十九文、五十九文、四十一文

坂下と水口、二里半

二百五文、百五文、百二文

水口と水口、二里廿五町

百七十七文、八十九文、五十九文

水口と石室、三里廿六町

百四十九文、百五文、七十九文

石室と赤松、三里

百四十九文、八十九文、六十九文

赤松と赤松、三里廿四町

百五十九文、百五文、八十九文

三河分新根、三里世町
 四百廿八丈 四百七十五丈 四百廿八丈
 新根分小田原、四里
 四百廿八丈 三百廿五丈 四百廿八丈
 小田原分大塚、四里
 二百廿八丈 九十九丈 九十九丈
 大塚分平塚、廿六町
 廿八丈 十八丈 十三丈
 平塚分若沢、三里古町
 四百廿八丈 七十九丈 九十九丈
 若沢分戸塚、二里
 八十九丈 四十九丈 三十九丈

大塚分京、三里
 四百九丈 四百九丈 八百四丈
 京分伏見、三里
 四百九丈 九十九丈 七十九丈
 伏見分淀、三里十二町
 九十九丈 三十九丈 二十九丈
 淀分牧方、三里
 四百九丈 九十九丈 七十九丈
 牧方分大坂、八里
 二百九丈 四百九丈 四百九丈

戸塚分新谷、二里
 四百八丈 四百四丈 四百八丈
 新谷分新茶川、一里
 四百九丈 九十九丈 十八丈
 新茶川分川崎、二里半
 四百九丈 四百九丈 四百九丈
 川崎分京、二里半
 四百九丈 四百九丈 四百九丈
 京分目黒橋、二里
 九十九丈 四百九丈 四百九丈

大坂分淀、三里
 四百九丈 九十九丈 七十九丈
 淀分伏見、三里十二町
 九十九丈 三十九丈 二十九丈
 伏見分京、三里
 四百九丈 八十九丈 七十九丈
 伏見分大津、四里
 四百九丈 四百九丈 八百七丈
 大津分京、三里
 四百九丈 九十九丈 七十九丈

三河
 三河

三河

東海道紀行

柳枝軒版行

一 吾嬬踏記

出本

一冊

一 同附錄

同

一冊

一 武藏野道草

出本

三冊

一 歸家日記

同

三冊

一 關東海道記

以下未刻

源通村

一 日光山紀行

藤原光廣

一 清見乃記

藤原實枝

武藏野紀行

平氏康

關東海道記

藤原雅康

富士紀行

藤原雅世

富士紀行

釋堯孝

東園紀行

源親行

遠江紀行

釋增基

六條通御幸町西江入町

書林柳枝軒茨城多丸忠門



貝原先生編述目次書林柳枝軒藏版

享

點

家道訓 六

築前名寄 二

大和俗訓 八

大和めくし 一

有馬名所記 一

京都めくし 一

三禮口訣 五

木曾路之記 一

日光名所記 一

菜譜 三

諸州めくし 五

吉野山圖 一

慎思錄 六

續和漢名數 三

日本釋名 三

文武訓 六

初學訓 五

神祇訓 同

和學一步 同

扶桑紀勝 同

日用良方 同

格物餘話 同

東海乃の記

同附錄

農業全書 十二

和爾雅 九

和漢事始 十三

諺州 九

孝經釋義便蒙

續諸州めくし

歲

六

保

